

それゆゑ「其れ故」(接) 八八⑭  
 五〇  
 さん・ず「損」 cf. まねびそんず  
 さんわう「孫王」 四〇①

た

たい「対」 三⑦  
 たいあんだう「戴安道」 八⑫  
 だいいち「第一」 cf. ほっけさいだいいち  
 ち

六一① 一二② 一四② 五⑭

ださいあん「大斎院」 八⑦ 六①

たいし「太子」 四⑨

だいいじ「大事」 三③

たいしやう「大将」 cf. かほるたいしやう

う・ぜんくわんばくのたいしやう・

とのたいしやう・ひげくろのたい

しやう・まめびとのたいしやう・み

やのたいしやう

三⑦⑤ 三③③ 四②② 四⑥⑥

四①① 三①① 六⑤⑤ 六⑤⑦

六⑤⑨ 六③③ 六①① 六⑬⑬ 六⑭⑭ 六⑨⑨

だいいじやうてんわう「太政天皇」 四⑫⑫

たいしやうどの「大将殿」 五②② 六②②

たいしやうのうへ「大将の上」 五②①

六⑬⑬

たいしやうのひめぎみ「大将の姫君」

五①①

だいちろくはんしんどう・す「大地六反  
 震動す」

—する入体V 四⑦⑦

だいなごん「大納言」 cf. あぜちのだ

なごん・こうばいのだいなごん・こ

んだいなごん

六⑤③ 六⑤⑭

だいなごんのきたのかた「大納言の北

の方」 六⑤⑩

だいに「大貳」 一九②

だいにがむすめ「大貳が女」 六⑦⑩

だいにのむすめ「大貳の女」 五⑥⑥

だいのうた「題の歌」 五⑬⑬ 五⑭⑭

五②②

たいのきみ「対の君」 五②②

たいふ「大輔」 cf. いせのたいふ

だいまやうじん「大明神」 cf. かものだ

いみやうじん

たいめん・す「対面す」(動サ変)

—し入用V 四⑤⑫

だいもん「大門」 二②

たう「唐」 五④④

だう「堂」 cf. ちぶつだう・ほっけだう・

みだう

だうしん「道心」一四〇  
 たうど「唐土」一〇七  
 たうりてん「切利天」癸⑨ 癸⑪  
 たえこも・る「絶え籠る」《動四段》  
 ーり八用▽ 丑⑭  
 たえは・つ「絶え果つ」《動下二段》  
 ーて八用▽ 癸⑫  
 たえま「絶え間」cf. たえまたえま  
 たえまたえま「絶え間絶え間」\*六⑫  
 たえゆ・く「絶え行く」《動四段》  
 ーく八用▽ 癸⑦  
 たかくらゐん「高倉院」六⑥  
 たかさこ「高砂」三六④  
 たか・し「高し」《形ク活》cf. なだかし  
 ーく八用▽ 癸⑬  
 ーき八用▽ 癸⑤ 癸⑬  
 たかのぶ「隆信」二⑥  
 たがへ「達へ」cf. ところたがへ  
 たきつせ「滝つ瀬」\*八⑥  
 たきもの「薫き物」丑②  
 たぎ・る「滾る」《動四段》  
 ーり八用▽ \*八⑥  
 たぐひ「類ひ」三⑦ 七⑬ 八⑥

たぐひな・し「類ひ無し」《形ク活》  
 ーく八用▽ \*三⑨ 八⑭  
 たけ「竹」cf. くれたけ  
 たけ・し「猛し」《形ク活》  
 ーかり八用▽ 三⑦⑥  
 たけとり「竹取」八作品名▽ 一五②  
 たすか・る「助かる」《動四段》  
 ーり八用▽ 八⑥  
 ただ「唯・只」《副》一⑤ 三⑦ 四④  
 八⑪ 九⑥ 一〇② 一〇⑤ 一〇⑥ 二②  
 二⑥ 二⑩ 二⑬ 二⑰ 二⑱  
 三② 四⑥ 四⑧ 四⑪ 五⑧  
 六② 六① 六② 七⑨ 七⑪  
 七② 七③ 八⑤  
 ただあり・なり「徒有りなり」《形動ナリ活》  
 ーに八用▽ 六⑩ 六⑪  
 ただいま「只今」《名・副》九⑫ 一〇④  
 三⑨ 六③ 六⑨ 八② 八③  
 六①  
 たた・く「叩く」《動四段》  
 ーき八用▽ 三①  
 ただ・し「正し」《形シク活》  
 ーしき八用▽ 四⑩

ただすのかみ「糺の神」\*三⑧ (八名を正す) ヲカケル  
 ただ・なり「徒なり」《形動ナリ活》  
 ーに八用▽ \*六⑧  
 ただびと「徒人」三⑬  
 たたみ「畳」七④  
 たた・む「畳む」《動四段》  
 ーみ八用▽ 一⑩  
 たち「太刀」三⑤  
 たち「立ち」cf. もとだち・ゆふだち  
 たち「達」《接尾》cf. おとどたち・おんはらからたち・きんだち  
 たちい・づ「立ち出づ」《動下二段》  
 ーで八用▽ 二⑨  
 たちかへ・る「立ち帰る」《動四段》  
 ーり八用▽ 二③ 四④ 六⑥  
 ーる八用▽ 一⑬ 一六⑪  
 ーる八用▽ 二① 三⑭ 六⑬  
 たちき・く「立ち聞く」《動四段》  
 ーき八用▽ 三⑬ 七⑤  
 たちそ・ふ「立ち添ふ」《動四段》  
 ーひ八用▽ \*三⑪  
 たちとま・る「立ち止まる」《動四段》  
 ーり八用▽ \*三⑪

たちなる「立ち馴る」《動下二段》

―れ八用V 六⑤

たちまさる「立ち勝る」《動四段》

―り八用V 二七⑦

たちまじる「立ち交る」《動四段》

―り八用V 一八⑧ 六⑩

たちまちに「勿ちに」《副》 四⑪ 四⑫

二⑦

たちまはる「立り回る」《動四段》

―り八用V 六⑦

たちわかる「立ち別る」《動下二段》

―れ八用V 六③

た・つ「立つ」《動四段》 cf. あやにくだ

つ・いでたつ・いひたつ・うるはし

だつ・おもひたつ・きりたつ・さき

だつ・まめだつ

―た八用V 六⑭ 六⑮

―ち八用V 三⑩ 三⑬ 六⑮①

三⑦ 六② 六④ 六⑤①

た・つ「立つ」《動下二段》 cf. いだした

つ・とりたつ・ひきたつ

たづ・ぬ「尋ぬ」《動下二段》

―ね八用V 六⑮③ 六⑮④

―ね八用V 八⑫ 三⑦ 二⑫ 六⑮③

六⑧ 八⑧

たづねあ・ふ「尋ね合ふ」 cf. とひたづ

ねあふ

たづねい・づ「尋ね出づ」《動下二段》

―で八用V 三⑩

たづね・く「尋ね来」《動カ変》

―き八用V 四⑩ 五⑥

たづねゆ・く「尋ね行く」《動四段》

―く八用V 六③

たてまつる「奉る」《動四段》

―り八用V 二六⑪ 五⑥

―る八用V 三⑥

―る八用V 一⑨

たてまつる「奉る」《補助四段》

―ら八用V 四③ 四⑥ 一五⑦ 四⑤

六⑪ 九⑪ 六⑦

―り八用V 二⑤ 七① 一三⑬ 二五⑫

三⑦ 四⑪ 四⑦ 八⑬ 八②

六② 六⑤ 八②

―る八用V 七⑥ 九① 八②

―る八用V 六⑧ 二⑤ 六⑭

―し八用V 四①

たとしへな・し「譬へ無し」《形ク活》

―き八用V 四六④

たとひ「縦ひ」《副》 五⑭

たどる「辿る」 cf. たどるたどる

たどるたどる「辿る辿る」《連》 六⑪

たね「種」 六⑮③

たのみ「頼み」 九①

たの・む「頼む」《動四段》

―み八用V 六⑮③

たのも・し「頼もし」《形シク活》

―し八用V 七⑤

たはぶる「戯る」《動下二段》

―るる八用V 八④

たはる「戯る」《動下二段》

―れ八用V 二六⑧

たび「度」 cf. ひとたび・ふたたび

三⑧ 三⑨ 九⑩ 八⑦ 九⑫

たび「旅」 一六⑥

たびごと「度毎」 六⑮⑤

たびずみ「旅住み」 cf. おんたびずみ

たびね・す「旅寝す」《動サ変》

―せ八用V 六⑮⑤

たふと・し「尊し」《形ク活》

たうと八語幹V 五⑮③

たま【玉】 \*八三⑥  
 たま【靈・魂】 cf.こたま

\*六三③ \*八三④

たまかつら【玉鬘】△人名▽ 二四⑩

たまかつらのきみ【玉鬘の君】 三九⑧

たまかつらのひめきみ【玉鬘の姫君】

一九⑪

たまたま【偶偶】(副) 一③ 二⑬

一三⑫ 五⑦ 八六⑭

たまのかんざし【玉の簪】 五③ \*五三⑬

たまのはた【珠の幢】 二⑥

たまは・す【賜はず】(動下二段)

一せ△用▽ 一⑭ 八三⑧

たまは・る【賜はる】(動四段)

一ら△未▽ 五②

一り△用▽ 四① 八七③

一る△体▽ 四⑬

たま・ふ【給ふ】(補助四段)

一は△未▽ 五① 七② 二四⑩ 二六⑫

三⑨ 三⑩ 三九⑨ 六二⑭ 七①

八七⑤

一ひ△用▽ 三⑧ 五① 六① 一六④

一六⑩ 一六⑫ 二五⑥ 二九⑥

二九⑧ 二九⑪ 三〇⑭ 三⑥ 三⑨

三四① 三五② 三五④ 三五⑫ 三五⑮

三六⑥ 三六① 三六④ 三六⑩

三七③ 三七⑩ 三八⑤ 三八①

三八② 三八③ 三八⑬ 九〇⑫ 九〇⑬

九① 九⑥ 九⑫ 九⑬ 九⑮

九⑩ 九⑰

一う△音便▽ 三⑥

一ふ△止▽ 八⑭ 三⑬ 二七⑪ 二九⑭

三⑥ 三⑬ 三⑮ 三六⑩ 三六⑥

八⑬ 九② 九⑤

一ふ△体▽ 二⑫ 三⑤ 四⑦ 五②

一三⑤ 一六④ 一六⑤ 一六⑦ 一七⑬

一九④ 一九⑪ 二③ 二④ 二⑤ 二⑥

二四⑩ 二五④ 二五⑦ 二六⑦ 二六⑪

二七⑬ 二八⑨ 二八⑭ 二九② 二九④

三〇⑨ 三⑥ 三⑪ 三⑫ 三⑬

三一① 三一⑨ 三一⑫ 三一⑰ 三一⑱

三三⑧ 三三⑪ 三三⑱ 三三⑳

三七⑬ 三八② 三三⑪ 三三⑱ 三三⑳

四⑩ 四⑫ 四⑬ 四⑰ 四⑱

五⑦ 五⑬ 六⑫ 六⑱ 八〇⑥

一へ△已▽ 二③ 一八② 一九② 三③

三三⑦ 三三⑮ 三三⑲ 三三⑳

三五③ 三五⑤ 三五⑫ 三五⑳

三六⑩ 三六⑰ 三六⑲ 三六⑳

三七⑦ 三七⑱ 三七⑳ 三七㉑

三八⑭ 三八⑲ 三八⑳ 三八㉑

四⑫ 四⑰ 四⑱ 四㉑

五③ 五⑱ 五⑲ 五㉑

六⑥ 六⑱ 六⑲ 六㉑

九① 九⑱ 九⑲ 九㉑

一へ△命▽ 五⑨ 一五⑤ 三三⑭ 三五⑫

五⑫ 八⑪

たまも【玉藻】△作品名▽ 五七⑨

ため【為】cf.おんため

三③ 一四⑤ 一九⑤ 二〇⑭

ためし【例し】 八⑬ 三⑫ 六⑥ 八③

八⑪ 八⑮ 八⑰ 八⑱ 九⑨

九⑳

たもと【袂】cf.こけのたもと

\*六八②

た・ゆ【絶ゆ】(動下二段)cf.おもひたゆ

一え△未▽ \*三⑧ 七⑦

一え△用▽ 一〇⑭ 二〇⑤ \*五六⑦

四⑦ \*七⑪

―ゆへ止▽ 四六⑫

―ゆるへ体▽ \*三三⑥

たゆみな・し「弛み無し」《形ク活》

―からへ未▽ 六三⑫

―くへ用▽ 六三⑤

たより「便り」 六三②

た・る「足る」《動四段》 cf.おもひたる

―りへ用▽ 六六⑨

たれ「誰」《代》 cf.たれたれ

一九① 一九④ 二五⑦ 四一⑩ 七三⑫

五三④ 五九⑬ 八二⑪ \*八三⑫

たれたれ「誰誰」《代》 一七⑩ 三三⑬

七三⑭ 八三④

ち

ち「路」 cf.ゆめち・わかれち

ちか・し「近し」《形ク活》 cf.げちかし

―くへ用▽ 六四⑬ 三三② 四三⑪ 五三①

―きへ体▽ 三三⑬

ちが・ふ「違ふ」 cf.ゆきちがふ

ちぎり「契り」 cf.なかのちぎり・むか

しのちぎり

\*四三① \*四六⑦ 四八① 四八② 四九⑫

\*五〇⑫ 五二⑤ 五二⑦ 五八⑧ 六三①

ちぎ・る「契る」《動四段》

―りへ用▽ \*三三③ \*五五⑧ \*六〇④

ちぢ「千干」 四八⑪ 四八⑫

ちぢおとど「父大臣」 二六⑩ 三三⑫

元⑭ 四一① 五二③ 六六①

ちぢみや「父宮」 二二⑮ 三三⑦

ちぶつたう「持仏堂」 三三⑭

ちやうごんか「長恨歌」 二七⑬

ちやうしゅんぐゑ「長春花」 三二⑫

ちゆうぐう「中宮」 一七⑨ 五五⑬ 六六⑤

ちゆうぐうのおんかた「中宮の御方」

三三③

ちゆうぐうのにようばう「中宮の女房」

六三⑬

ちゆうじやう「中将」 cf.いはもるちゅ

うじやう・げんのちゆうじやう・こ

れひらのちゆうじやう・さいしやう

のちゆうじやう・さんみのちゆうじ

やう・ちゅうなごんのちゆうじやう

・ごうのちゆうじやう・みちのぶの

ちゆうじやう・みやのちゆうじやう

・ろくでうのみやすどころのちゆう

じやう

六六⑫

ちゆうじやうのみみ「中将の君」 三三①

ちゆうなごん「中納言」 cf.あきもとの

ちゆうなごん・ごんちゆうなごん・

さだよりのちゆうなごん・せんなち

ゆうなごん

三三⑥ 三三⑭ 四五⑤ 五五⑫

五五④ 五七⑦ 六〇⑪

ちゆうなごんのみみ「中納言の君」

四三③ 四三⑤

ちゆうなごんのちゆうじやう「中納言の

中将」 七三⑦

ちゆうもん「中門」 三三⑨

ちゆうもんちゆう「中門の廊」 七三③

ちよくせんしふ「勅撰集」 五三⑤

ちり「塵」 六六④ 五八⑧

ち・る「散る」《動四段》

―らへ未▽ 六六④

―りへ用▽ 三三⑬ 六六④

―るへ止▽ 二九⑨ \*八三⑥

―るへ体▽ 四九⑨ 六三③

つ

ついち「築土」 三三⑥

つかうまつ・る「仕る」《動四段》

- ーりへ用▽ 六⑥  
 つかは・す「遣はず」《動四段》  
 ーしへ用▽ 四④ 八④  
 つかひ「使ひ・遣ひ」cf. おんつかひ・  
 こころつかひ・ことばつかひ・みは  
 かしのつかひ  
 つか・ふ「使ふ」《動四段》  
 ーひへ用▽ 三③  
 つか・ふ「仕ふ」《動下二段》  
 ーへへ用▽ 四④  
 つかへ「仕へ」cf. しもつかへ・みやつ  
 かへ  
 つかまつ・る「仕る」《動四段》  
 ーりへ用▽ 八④  
 つき「月」cf. ありあけのつき・らぎよ  
 ひのつき・としつき・なかはなるつ  
 き・ふゆのよのつき  
 六② 七② 八④ 八⑧ 八⑪  
 八⑫ 八⑬ 三⑩ \*四⑧ \*二④  
 \*四③ 六③ 六⑤  
 つきかげ「月影」\*三⑫  
 つきけす「月けす」へ作品名▽ 五⑦  
 つきごとのやまひ「月毎の病」 五⑨  
 つき・す「尽ます」《動下二段》  
 ーせへ未▽ 五九⑦  
 つきづき・し《形シク活》  
 ーしくへ用▽ 三④  
 つきな・し「付き無し」《形ク活》  
 ーきへ体▽ 二四④  
 つきのかほ「月の顔」 三⑥  
 つきのひかり「月の光」 八⑧ 九④ 九⑥  
 六⑭  
 つきひ「月日」 五①  
 つきよ「月夜」cf. おぼろつきよ  
 つ・く「付く」《動四段》cf. あいぎやう  
 づ・く・ほけつく  
 ーきへ用▽ 五②  
 つ・く「付く」《動下二段》cf. ききつく  
 ・まちつく・みつく  
 ーけへ用▽「に」つけて「ノ形デ」  
 二⑦ 七② 八④ 九⑥ 三⑦ 四④  
 三⑧ 四⑤ 五⑨ 五⑫ 五⑭  
 六③ 六③ 八⑫ 八⑩ 八④  
 八⑤ 八⑨  
 つ・く「着く」cf. おはしつく  
 つ・く「尽く」《動上二段》  
 ーきへ未▽ 六⑥  
 ーきへ用▽ \*三⑥ \*四⑩ 八⑥  
 つ・く「次ぐ」《動四段》cf. とりつく  
 ーぎへ用▽ 四⑩  
 つ・ぐ「告ぐ」《動下二段》  
 ーげへ未▽ 五⑫  
 ーげへ用▽ 五⑩  
 つくし「筑紫」 五⑧  
 つくし「尽し」cf. こころづくし  
 つくしくたり「筑紫下り」 三⑩  
 つく・す「尽す」《動四段》cf. いひつく  
 す・かかげつくす・かきつくす  
 ーしへ用▽ 四⑩ 八①  
 つくづくと「熟と」《副》 七⑬ 八④  
 八⑪  
 つくもがみ「九十九髪」\*六⑥  
 つくりいだ・す「作り出だす」《動四段》  
 ーすへ体▽ 一五②  
 つくりい・づ「作り出す」《動下二段》  
 ーでへ用▽ 一四⑫ 一五③ 四⑨ 八④  
 つくりのこ・す「作り残す」《動四段》  
 ーしへ用▽ 一四①  
 つくる「作る」《動四段》  
 ーらへ未▽ 一五①  
 ーりへ用▽ 三⑫ 七⑥ 七⑦ 七⑨  
 七⑫ 八③ 八⑩ 八⑫

- ーるへ止V 五三④
- ーれへ命V 八六①
- づしやか・なり《形動ナリ活》
- ーにへ用V 五五①
- ーなるへ体V 二四⑦ 二五③
- つたふ「伝ふ」《動四段》cf.うらづたふ
- つた・ふ「伝ふ」《動下二段》cf.いひつたふ・かきつたふ・かたりつたふ・ききつたふ・ならひつたふ
- ーふるへ体V 八七⑭
- ーへよへ命V \*三⑥ \*四⑦ \*五④
- つたへき・く「伝へ聞く」《動四段》
- ーきへ用V 五六④
- つづき「続き」cf.ことばつづき
- 四六⑤
- つづ・く「続く」cf.おぼしつづく・のたまひつづく・やりつづく
- つづけや・る「続け進む」《動四段》
- ーらへ未V 九⑬
- つつま・し「慎し」《形ク活》
- ーしけれへ已V 一⑫
- つつましげ・なり「慎し気なり」《形動ナリ活》
- ーなるへ体V 五五⑬
- つづみ「包み」cf.うはづつみ
- つづ・む「包む」《動四段》
- ーまへ未V 九⑬
- つづ・む「慎む」《動四段》
- ーめへ已V \*五③
- つづり「綴り」八⑧
- つて「伝」\*六③
- つどひあ・ふ「集ひ合ふ」《動四段》
- ーはへ未V 七⑨
- つど・ふ「集ふ」《動四段》
- ーひへ用V 五⑥
- つと・む「勤む」cf.おこなひつとむ
- つとめて《名》六三⑪
- つね「常」三⑬
- つねな・し「常無し」《形ク活》
- ーきへ体V \*四⑩
- つねに「常に」《副》\*五⑩ 五⑪
- つひに「遂に」《副》一九③
- つぶやきごと「喧き言」二六⑦
- つぼね「扇」七⑥
- つま「爪」六六⑫
- つま「妻」三②
- つみ「罪」七② 八⑤
- つ・む「集む」cf.かきつむ
- つ・む「詰む」cf.おもひつむ・ききつむ
- つ・む「摘む」《動四段》
- ーみへ用V 一⑨ 一⑫
- つもり「積り」cf.としのつもり
- 一⑥
- つも・る「積る」《動四段》
- ーりへ用V 一⑩ 一〇④ 三⑧
- つゆ「露」一⑧ 三⑧ 二六① 三六⑭
- \*三④ \*四④ \*五⑥ \*六② 九⑥
- 三⑭
- つゆ「露」《副》五⑨ 一〇⑥ 四九⑭
- 八九⑦
- つゆけ・し「露けし」《形ク活》
- ーくへ用V 三⑫
- ーきへ体V 三⑤
- つゆのやどり「露の宿り」へ作品名V
- 六⑨
- つゆも「露も」《副》二⑫
- つよ・し「強し」《形ク活》cf.こころづよし
- ーからへ未V 一〇⑭
- つらさ「辛さ」\*六⑥
- つらさ・る《吊したまま》ノ意デア

が、他ニ用例ナシ

―れハ用▽ ㊦③

つれづれ「徒然」 二一〇⑨ 八六⑦

つれづれ・なり「徒然なり」《形動ナリ

活》

―にハ用▽ 八五⑬

―なるハ体▽ 一〇①

て

て「手」cf.ひとて

三⑥ 三〇⑤ 八七①

てい「体」 八九⑪

ていかせうしやう「定家少将」 七⑨

齒③

ていじのみかど「亭子の帝」 二⑫

てうし「銚子」cf.しろがねのてうし

てづつげ・なり「手づつ気なり」《形動

ナリ活》

―にハ用▽ 七⑧

てて「父」 七⑦

てならひ「手習ひ」 四⑧⑧

てならひども「手習ども」cf.おんてな

らひども

てならひのみみ「手習のみみ」 三④

㊦①

てふ(一)言ふノ約) \*三③

てまさぐり「手弄り」 五④

てら「寺」 三⑧

てら・す「照らす」《動四段》

―さハ未▽ 六⑭

―せハ命▽ \*四③

でん「殿」cf.れいけいでん

てんじやう「殿上」 七④ 五⑥

てんじやうのおそび「殿上の遊び」

三⑤

てんじやうびと「殿上人」 五⑤ 六⑩

てんぢく「天竺」 二⑧

てんにん「天人」 四②

てんりやく「天曆」 二⑦⑦

てんわう「天皇」cf.だいじやうてんわ

う

と

と「戸」cf.あまのと

と「外」 八⑥

とうぐう「春宮・東宮」 六④ 五⑦

六⑭ 六①

とうぐうのせんじ「東宮の宣旨」ハ人

名▽ 六⑤

とうぐうのせんじ「春宮の宣旨」ハ作品

名▽ 六⑩

とうぐうのによう「東宮の女御」

六⑦

とうのちゆうじやう「頭の中將」 二六②

とうのちゆうじやうそれがし「頭の中

將某」 六⑭

とが「咎」 二七⑤ 四⑩

とかく《副》 一⑬ 六⑨ 二四⑤ 三⑩

六⑨

とが・む「咎む」《動下二段》

―めハ未▽ 齒①

―めハ用▽ 三⑥

とき「時」cf.おんとき・ときどき

六⑨

ときどき「時時」 五⑭ 六⑥ 一八⑦

ときのとほろ「時の所」 齒⑪

ときのみと「時の人」 八七⑤

ときは「常盤」ハ地名▽ 四⑧

ときはのかけ「常盤の蔭」 六③

ときめか・す「時めかす」《動四段》cf.

おぼしときめかす

―さハ未▽ 八⑬



ときめく・く「時めく」《動四段》

―かへ未▽ ㉞⑨ ㉞①

とく「徳」cf.おんとく

とく・く「解く」cf.うちとく・うちとく

とく・ふ「得業」㉞⑤

とく「床」\*㉞⑨

ところ「所」cf.おもひどころ・きぎどころ・しのびどころ・ときどころ

ところ・しどころ・みどころ・みやすどころ

どころ

一 ㉞⑪ ㉞① ㉞⑦ ㉞⑩ 二 ㉞⑧

二 ㉞⑫ ㉞⑨ ㉞⑭ ㉞④ ㉞⑦ ㉞⑧

三 ㉞⑩ ㉞⑭ ㉞⑥ ㉞⑨ ㉞①

三 ㉞⑦ ㉞⑪ ㉞③ ㉞⑫ ㉞①

三 ㉞③ ㉞⑨ ㉞⑤ ㉞③ ㉞⑬

四 ㉞⑧ ㉞⑪ ㉞⑩ ㉞⑦ ㉞⑨

㉞④ ㉞⑭ ㉞⑤ ㉞⑨

ところえがは・なり「所得顔なり」《形

動ナリ活》

―なるへ体▽ ㉞⑨

ところお・く「所置く」《動四段》

―きへ用▽ ㉞⑪

ところたがへ「所達へ」 ㉞⑩

ところとところ「所所」 ㉞⑥ ㉞⑤ ㉞③

㉞⑨ ㉞①

とさし「扁」cf.くさのとさし

とし「年」cf.おんとし

㉞⑥

と・し「疾し」《形ク活》

―へ用▽ ㉞⑧ ㉞③ ㉞⑧

としごろ「年頃」 ㉞②

としつき「年月」 ㉞⑤ ㉞③

としのつもり「年の積り」 ㉞⑤

とし・ふ「年経」《動下二段》

―へ用▽ ㉞⑨

―ふるへ体▽ \*㉞⑨

とせ「年」《接尾》cf.いくとせ・ひととせ

せ

とぢ・む「閉む」cf.おぼしとぢむ

とどま・る「留まる」《動四段》

―らへ未▽ ㉞① \*㉞⑧

―りへ用▽ ㉞③ ㉞⑭

―るへ止▽ ㉞⑤ ㉞⑥

とど・む「留む」《動下二段》cf.いひと

とむ・かきとどむ

―めへ未▽ \*㉞⑪

―めへ用▽ \*㉞⑬ \*㉞⑭ ㉞⑧

㉞④

―むへ止▽ ㉞⑫

との「殿」cf.おほにでうどの・くわん

ばくどの・たいしやうどの・なかの

くわんばくどの・ほりかはどの・み

くしげどの・わたどの

五 ㉞⑭ ㉞① ㉞② ㉞⑩

とのたいしやう「殿の大將」 ㉞⑥

とのばら「殿ばら」 ㉞⑩

とはずがたり・す「不問語りす」《動サ

変》

―しへ用▽ ㉞⑫

とひたつねあ・ふ「問ひ尋ね合ふ」《動

四段》

―はへ未▽ ㉞⑬

と・ふ「問ふ」《動四段》cf.こととふ

―はへ未▽ \*㉞⑤

―ひへ用▽ ㉞④ ㉞①

と・ふ「訪ふ」《動四段》

―はへ未▽ \*㉞⑩

とほ・し「遠し」《形ク活》

―きへ体▽ ㉞③ ㉞③

―けれへ已▽ ㉞② \*㉞⑨

とほ・す「通す」《動四段》

―しへ用▽ ㉞⑩

- すハ体V 六九⑧  
 とほ・る「通る」《動四段》  
 ーりハ用V 三〇⑩  
 とまで(存疑。「はまで(然迄)」「敷」)  
 六五⑪  
 とま・る「止まる・留まる」《動四段》  
 cf.たちとまる・みみとまる・めとま  
 る・ゆきとまる  
 ーらハ未V 一四⑨ 二⑨  
 ーるハ体V \*三〇⑥ 八⑦  
 とま・る「泊る」《動四段》  
 ーりハ用V 三六⑥  
 とみに「頓に」《副》 三三⑩  
 と・む「止む・留む」《動下二段》 cf.お  
 もひとむ  
 ーめハ未V \*三三⑥  
 ーめハ用V \*三二⑫  
 とめお・く「留め置く」《動四段》  
 ーきハ用V \*三二⑫  
 とも「友」 二⑩ 九⑤  
 とも「供」 三六⑧  
 ども《接尾》 cf.うたども・うつくしき  
 ども・おんうたども・おんかげども  
 ・おんてならひども・おんふみども
- ・こずゑども・ことども・なまども  
 ・しふども・そうしども・そぞろご  
 ども・ともだちども・にようばう  
 ども・ほどども・ものがたりども・  
 ものども  
 ともかくも《副》 三六⑥  
 ともがら「輩」 三六⑭  
 ともしひ「灯火」 二六④  
 ともだちども「友達ども」 八五⑤  
 ともなひがほ・なり「伴ひ顔なり」《形  
 動ナリ活》  
 ーにハ用V 二⑫  
 ともに「共に」《副》 cf.もろともに  
 一七④ 六⑫ 七⑧  
 とら・ふ「捕ふ」《動下二段》  
 ーハハ用V 三三⑤  
 とり「鳥」 cf.はなとり・みやことり・  
 むらとり・ゆふつげどり  
 とりい・つ「取り出す」《動下二段》  
 ーでハ用V 六⑩ 三三⑩ 三六⑭  
 とりおろ・す「取り下ろす」《動四段》  
 ーしハ用V 三三④  
 とりかか・る「取り掛る」《動四段》  
 ーりハ用V 三九②
- とりかく・す「取り隠す」《動四段》  
 ーしハ用V 三九⑪  
 とりかへばやハ作品名V 三七⑭ 三九⑤  
 とりこ・む「取り籠む」《動下二段》  
 ーめハ用V 六⑪  
 とりた・つ「取り立つ」《動下二段》  
 ーてハ用V 三三⑬ 三三⑰  
 とりつ・く「取り次ぐ」《動四段》  
 ーぐハ体V 六五⑥  
 とりどり・なり「取り取りなり」《形動  
 ナリ活》  
 ーにハ用V 七⑫ 一六① 一九⑬ 六⑬  
 とりなきしまのかはほり「鳥無き島の蝙蝠」  
 蝠 三六⑥  
 とりべやま「鳥辺山」 \*三九⑬  
 とりむすめ「取り娘」 六九⑭  
 とりむすめ・す「取り娘す」《動サ変》  
 ーしハ用V 三③  
 とりも・つ「取り持つ」《動四段》  
 ーちハ用V 四⑫  
 とりわき「取り分き」《副》 二四⑨ 二六⑥  
 二⑬  
 とりわ・く「取り分く」《動四段》  
 ーきハ用V 三六⑩

と・る「取る」《動四段》

ーらへ未V 元⑬ 四② 八⑩ 六⑥  
ーりへ用V「にとりて」ノ形デ

八① 八⑥ 二⑥ 二② 三⑨ 一九⑬

三⑭ 五⑤ 五⑩ 六⑫ 六⑯

六④

とをか「十日」cf.くぐわつとをか・こ

ぐわつとをか

な

な「名」 二五⑦ \*三⑧ \*三③ 五二②

三⑨ 七⑫ \*八⑩ 八⑪ 八⑧③

六① 六⑫

ないし「内侍」cf.おぼろづきよのない

し・かうじじゅうのないし・こしき

ぶのないし・ひゃうゑのないし

ないしのかみ「尚侍」cf.おぼろづきよ

のないしのかみ

二② 三⑥ 五③ 六⑫ 六⑫ 六④

ないしのすけ「典侍」cf.げんのないし

のすけ

なえば・む「琴えはむ」《動四段》

ーみへ用V 四⑪

なか「中」cf.おんなか・のなか・よの

なか

三⑨ 三⑫ 三⑭ 一三④ 一三⑤

二四③ 二五⑩ 一七① 一八⑨ 一九⑩

三⑬ 二四⑨ 二七① 二七③

\*六⑨ 四⑨ 四⑪ 四④ 四⑪

四⑬ 五③ 六⑭ 六⑨ 七⑧

五⑤ 七② 七⑦ 八① 八③

六⑩ 六⑭ 六⑯ 六⑳

なか「仲」 一〇④ 三⑬ 四⑧⑨ 四九⑬

なが・し「長し」《形ク活》cf.こころな

がし

ーきへ体V 三⑨

なが・す「流す」《動四段》

ーさへ未V 一七⑬ 三⑧ 八③ 六⑬

なかなか「却却」《副》 九⑫ 五①

五⑫ 七③ 七②

なかなか・なり「中中なり」《形動ナリ

活》

ーにへ用V 四⑥

なかのうへ「中の上」 四② 四九③

五⑧ 五⑬ 五⑭ 五⑥

なかのきみ「中の君」cf.うちのかなかの

きみ・すもりのなかのきみ・そちの

なかのきみ・よしののなかのきみ

二⑦ 六⑦ 六⑤

なかのくわんぱく「中の関白」 八⑤

なかのくわんぱくどの「中の関白殿」

六⑫

なかのちぎり「中の契り」 五⑩

なかのみや「中の宮」cf.うちのかなかの

みや

なかのむすめ「中の女」cf.しきぶきや

うのなかのむすめ

なかばなるつき「半なる月」 \*五〇⑥

なが・む「眺む」《動下二段》 cf.うちな

がむ

一め八未▽ 六③

一め八用▽ 二六④ 二六⑦ 三三⑤ 三三⑬

\*五九① \*五〇⑥ 六五⑤

一むる八体▽ 九⑤ 三〇⑭

一むれ八已▽ \*二八⑧

ながめい・る「眺め入る」《動四段》

一り八用▽ 三三⑭

なからひ「仲らひ」 四七⑭

ながら・ふ「永らふ」《動下二段》

一へ八用▽ 四九①

一ふる八体▽ \*四七⑨

なが・る「流る」《動下二段》

一れ八用▽ 二二②

なきかは・す「泣き交はす」《動四段》

一し八用▽ 三六⑥

なきさ「渚」 三〇⑬ \*四四⑬

なきね「泣き寝」 二〇③ 「なき」ニ「無

き」ヲカケル） \*九⑭ 「なき」ニ

「無き」ヲカケル）

なきひと「亡き人」 二〇③ \*三三⑭ \*三三⑮

な・く「泣く」《動四段》 cf.うちなく

一か八未▽ 一七⑦ \*三二⑭

一き八用▽ 二九⑦ 二九⑩ 三三⑬

一く八体▽ 二二⑫

な・ぐ「投ぐ」《動下二段》

一げ八用▽ \*三二② 四〇②

なぐさ・む「慰む」《動四段》 cf.おぼし

なぐさむ

一ま八未▽ \*五〇⑥ \*五二①

一み八用▽ \*三三⑤ 三三③ 八六⑦

一む八体▽ 二〇⑧

なぐさ・む「慰む」《動下二段》

一め八用▽ 三〇⑨ 二九⑦ 四七⑦

なぐさめ「慰め」 二七⑦ 二二⑦

なぐさめわ・ぶ「慰め佗ぶ」《動上二段》

一び八用▽ 四六②

なくな・る「亡くなる」《動四段》

一り八用▽ 三三④ \*三三③

なくね「泣く音」 \*三二④

なげき「嘆き」 \*二六⑨

なげきわ・ぶ「嘆き佗ぶ」《動上二段》

一び八用▽ \*三五②

なげく「嘆く」《動四段》

一か八未▽ 二七⑬ 六五⑫

一く八体▽ \*八四⑫

一け八命▽ \*六六⑥

なげ・なり「無気なり」《形動ナリ活》

一に八用▽ 三三④

なごり「名残り」 三三⑪

なごりな・し「名残り無し」《形ク活》

一く八用▽ 二四⑭ 三三⑫

なさけ「情け」 一〇⑤

なさけお・る「情け後る」《動下二段》

一れ八用▽ 四六⑥

なさけな・し「情け無し」《形ク活》

一く八用▽ 四四⑩

一き八体▽ 八⑤ 八⑨ 二二⑦

一か八体▽ 六九⑩

なし「成し」 cf.もてなし

な・し「無し」《形ク活》 cf.あいぎやう

なし・いたりなし・いつとなく・い

ふかひなし・うらなし・かぎりなし

・かひなし・くまなし・ころつき

なし・ころなし・さだめなし・た

ぐひなし・たとしへなし・たゆみな

し・つきなし・つねなし・なごりな

し・なさけなし・なにとなし・へだ

てなし・ほいなし・やんごとなし・

よしなし・わりなし

―からへ未▽ 一〇〇⑧ 五五⑩ 五二② 五八⑧

―くへ用▽ 一④ 八⑩ 九五 二〇④

三〇⑦ 三③ 二五② 二八④ \*三六⑬

\*三七⑦ 四四⑦ 四四⑨ 四四⑤ \*四六⑫

五八⑧ 六〇② 六〇⑬ 六③ 六九①

七⑧ 七① 九八 九五②

―かりへ用▽ 八⑤

―しへ止▽ 一⑤ 三⑥ 二四① 四①

六〇⑥ 六七⑩ 六八⑪ 六八⑬

―きへ体▽ 一⑦ 三① 一〇⑥ 二②

五五⑫ 四四④ 五⑪ 五九⑦ 六⑥

六⑫ 六四⑥ 六五⑩ 六五⑪ 六七⑥

七⑩ 七⑭ 七九② 八⑬ 八五⑤

八七⑬ 八七⑭ \*九③ 九⑧ 九⑨

―かへ体▽ 五③ 六〇⑦

―けれへ日▽ 四② 四⑧ 五①

五七④ 六四⑩

な・す「成す・為す」《動四段》cf.きこ

えなす・しなす・まねびなす・みな

す・もてなす

―しへ用▽ 三⑪ \*三八⑬ 三三⑪

なすら・ふ「準ふ」《動四段》

―ふへ体▽ 四⑫

な……そ《副：助》 \*六⑥

なだか・し「名高し」《形ク活》

―きへ体▽ 六⑫

なだらか・なり《形動ナリ活》

―にへ用▽ 七④

なつ「夏」 八⑧

な・づ「撫づ」《動下二段》

―でへ未▽ \*五五④

なつか・し「懐し」《形シク活》

―しからへ未▽ 五四④

―しくへ用▽ 四⑬ 八六⑪ 八九⑨ 八九⑩

―しかりへ用▽ 二六①

なつくさ「夏草」 三⑫

なでしこ「撫子」cf.からなでしこ

三⑫

なでふ《連》 六一⑩

なでん「南殿」 三⑦

など《副》 一三⑭ 一八⑬ 一九⑩ \*四九⑦

六〇③ 六七⑫ 九⑥

などか《副》 \*五⑪ 七⑤

などかは《連》 \*四③

などて《副》 \*四七⑨

なに「何」《代》 \*五⑬ 八⑨

なにか「何か」《連》 八⑧

なにがしろうづ「某僧都」 八三⑭

なにごと「何事」 八① 一〇⑤ 一三⑤

二四① 一七⑦ 一九⑤ 三⑥ 二四⑨

二八⑤ 四⑤ 四⑥ 四七② 五③

五① 六④ 六⑧ 六⑤ 六⑬

六⑬ 六⑥ 六七⑦ 六九④ 七⑤

七⑥ 七⑨ 八⑥ 八⑨ 九⑧

九⑩ 九③ 九五⑧ 九五⑨ 九③

なにしに「何為に」《副》 一六⑫

なにとて「何とて」《副》 一八⑥

なにとなし「何と無し」《形ク活》

―くへ用▽ 三⑥ 三④ 四⑫ 五⑥

五⑤

なにの「何の」《連》 二⑫ 三①① 四②

五⑨

なにばかり「何ばかり」《連》 一八⑨

九③

なのみ・なり「斜めなり」《形動ナリ活》

―ならへ未▽ 一九⑤

―にへ用▽ 五②

なび・く「靡く」《動四段》cf.うちなび

く・おもひなびく

―かへ未▽ 一九② 二五④ 四⑬

―きへ用▽ 二七⑭



ーるへ止む 四六〇

ーるへ休む 四〇四 六〇八 六〇九

ーれへ命を 三二四 三三〇

なる「馴る」《動下二段》 cf. うちなる

・たちなる・まわりなる・みなる

ーれへ用む 三六七 三七一

なる「鳴る」《動四段》

ーりへ用む 三三〇

なれむつ・ぶ「馴れ睦ぶ」《動四段》

ーびへ用む 三三三

なれもの「馴れ者」 六〇五

なん「難」 一四二 三二四

なんとう「南東」 cf. みなみひがし

に

にき「日記」 八九二

にくさ「憎さ」 五九一

にく・し「憎し」《形ク活》 cf. きこえに

くし・ころにくし

ーからへ未む 六〇五 六〇七

ーくへ用む 三三三 三三九

ーしへ止む 四〇九 五〇〇

ーきへ休む 三三三 三三九

五〇六 六〇七 六二二

ーけれへ已む 三三〇 三三七 六七〇

六九三

にくみあ・ふ「憎み合ふ」《動四段》

ーはへ未む 一九一

に「り」濁り 九二

にさんになん「三人」 四八

にさんへん「三遍」 一三七

にしさま「西様」 二〇

にしのたい「西の対」 cf. いちでうみん

のにしのたい

にじふ「二十」 九七四

にせんりのそと「二千里の外」 三三〇

にっき「日記」 cf. にき

にでうどの「二条殿」 cf. おほにでうど

の

にでうのうへ「二条の上」 六七〇

にでうみん「二条院」 六〇四 三三〇 三三三

にのみや「二の宮」 cf. をんなにのみや

には「庭」 三〇八 三〇九 三二四

にはか・なり「俄かなり」《形動ナリ活》

ーにへ用む 三三二 三三九

にはくさ「庭草」 六二四

にば・む「鈍む」《動四段》

ーめへ已む 二六二

にひいろ「鈍色」 三二四

にふだう「入道」 cf. あかしのにふだう

さんみにふだう

四六二 四六六

にほひ「匂ひ」 cf. おんにほひ

にほひい・づ「匂ひ出づ」《動下二段》

ーでへ用む 四八二

にほ・ふ「匂ふ」《動四段》

ーふへ休む 三二七

にほひやうぶまやうのみや「匂兵部卿

の宮」 二六〇

にほん「日本」 cf. やまと

にもなくまたさんもなし「無二亦無三」

cf. むにやくむさん

によう「女御」 cf. とうとうのによう

三三九 三三〇 三三三 三三六

にようばう「女房」 cf. ちゅうぐうのに

ようばう・なまにようばう

三三〇 三三三 三三六 三三九

にようばうども「女房ども」 二九〇

にようみん「女院」 六〇一 三三〇 三三三

によう「女御」 cf. によう

にようみん「女院」 cf. にようみん

にらみこる・す「睨み殺す」《動四段》

―し入用▽ 三〇⑥

にる「似る」《動上一段》

に八未▽ 三① 八九⑪

にん「人」cf.さんしにん・しごにん・

しちはちにん・にさんにん

ぬ

ぬ「寝」《動下二段》

ぬれ八已▽ \*七⑬

ぬ・く「抜く」《動四段》

―き入用▽ 三三⑤

ぬし「主」\*七⑨ 八八④

ぬす・む「盗む」《動四段》

―ま八未▽ 五五⑫

ぬら・す「濡す」《動四段》cf.うちぬら

す

―せ八命▽ 三三⑩

ぬ・る「濡る」《動下二段》

―れ入用▽ 二六① \*三三②

ね

ね「音」cf.きんのね・しのびね・なく

ね・むしのね・ものね

\*三⑥ 三② 四② 八⑤ 八②

ね「根」cf.かきね

\*七⑪

ね「寝」cf.そらね・なきね・まろね

ねざめ「寝覚」八作品名▽ 四⑦ 五②

六⑦ 七⑤ 七①

ねざめ・す「寝覚めす」《動サ変》

―せ八未▽ \*五⑩⑨

ねたげ・なり「妬気なり」《形動ナリ活》

―に八用▽ 八②

ねた・し「妬し」《形ク活》

―けれ八已▽ 六五①

ねちけば・む「拗けばむ」《動四段》

―み入用▽ 五五⑨

ねぶ・る「眠る」《動四段》

―る八体▽ 三六④

ねりぬき「練り貫き」四⑪

ねん「年」cf.せんねん・ひやくねん

ねんぶつ「念仏」cf.ふだんのねんぶつ

二③

の

の「野」cf.むさしの・をの

七⑦

のが・る「通る」《動下二段》

―れ入用▽ 六五①

のき「軒」三⑬

のこ・す「残す」《動四段》cf.つくりの

こす

―し入用▽ 六二⑩

のこり「残り」二六⑤

のこ・る「残る」《動四段》cf.きえのこ

る

―ら八未▽ 五⑨ \*三⑧ \*七④ 八⑩⑭

―り八用▽ 六⑥ 八②

―る八体▽ 八⑩

のたまひつづ・く「宣ひ続く」《動下二

段》

―け八用▽ 三三⑬

のたまは・す「宣はす」《動下二段》

―せよ八命▽ 三三⑨

のたま・ふ「宣ふ」《動四段》

―ふ八止▽ 四⑪ 五⑩⑪

―ふ八体▽ 四⑫ 四⑬⑭

―へ八已▽ 三三⑬ 三⑩⑪ 六⑧ 四七⑥

―へ八命▽ 八② 五⑨ 五⑫

のち「後」二⑬ 一⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖

三⑳㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺



四〇七 四〇九 三〇一 三〇一 三〇五

五〇六 五〇四 六〇四 六〇四 六〇四

五〇四 五〇四 八〇三 八〇三 九〇五

六〇三 五〇一

のちのおや「後の親」一八四 二〇五

のちのよ「後の世」cf.ごせ

三〇八 三〇三 一四〇 八四六

のどか・なり「閑かなり」《形動ナリ活》

—に八用▽ 四〇五

のど・む「和む」cf.おぼしのとむ・お

もひのとむ・こころのとむ

のどやか・なり「閑やかに」《形動ナ

リ活》

—に八用▽ 五〇一

のなか「野中」\*八四〇

のべ「野辺」一〇八 \*五九〇 \*九〇八

のぼ・す「上す」cf.よびのぼす

のぼりさま「登り様」\*五三〇

のぼ・る「上る」《動四段》cf.おひのぼ

る

—り八用▽ 五〇三

のりぐ・す「乗り具す」《動サ変》

—し八用▽ 四三〇

のりのし「法の師」四三〇 五七〇

のわき「野分」△作品名▽ 一七〇

のわきのあした「野分の朝」三三〇

三三〇

のわきのまぎれ「野分の紛れ」三三〇

は

は「葉」cf.いなば

は「端」cf.やまのは

はうべんほんびくげ「方便品比丘偈」

六〇二

はかし「佩刀」cf.みはかし

はかなげ・なり「果無気なり」《形動ナ

リ活》

—に八用▽ 四〇四

はかなさ「果無さ」cf.ものはかなさ

はかな・し「果無し」《形ク活》cf.もの

はかなし

—き八用▽ 一〇三 二二〇 三二〇 三二四

はかばか・し「果果し」《形シク活》

—しく八用▽ 三〇六 三〇八

—しき八用▽ 八二四

はかまぎ「袴着」cf.おんはかまぎ

はか・る「量る」cf.おしはかる

はくがのさんみ「博雅の三位」八七〇

八七〇

はこ・ぶ「運ぶ」cf.うちはこぶ

はし「端」かたはし

はしたな・し《形ク活》

一き入体V 三〇③  
 はしたな・む (動下二段)  
 一め入未V 三三⑫

はじ・む「始む」(動下二段) cf. いひは  
 じむ・うちはじむ

一め入用V 二⑥ 四⑩ 一三⑬ 一七⑦

一六⑤ 一六⑫ 二〇⑬ 二二③ 二六④

三三③ 三三⑩ 三三⑦ 三九⑭ 三九⑨

はじめ「初め・始め」三⑥ 二五⑨

三六⑫ 三三⑩ 四〇⑧ 四九⑫ 五六⑬

五七⑧ 三六⑤ 六九⑪ 八〇⑤ 八九②

はじめて「副」二④ 一三⑧ 一六②

はしら「柱」cf. かねのはしら

はせ「接尾」こころばせ

はた「幟」cf. たまのはた

はたら・く「働く」(動四段)

一き入用V 三②

三三⑩

はちぐわつじふごや「八月十五夜」

三⑤

はちだいしふ「八代集」三⑦

はちでうのひと「八条の人」三六⑪

は・つ「果つ」(動下二段) cf. おもひは

つ・すみはつ・たえはつ・なりはつ  
 ・みはつ・よみはつ  
 一て入未V \*三三⑭

一て入用V 三三② 三六⑧ 三三④ 三三⑩

はづか・し「恥づかし」(形シク活) cf.  
 ころはづかし

一しく入用V 一三②

一しう入音便V 八九③

一しき入体V 三〇⑬

はつか・なり「僅かなり」(形動ナリ活)

一に入用V 三三⑭

はつきもちのひ「八月十五日」cf. はち  
 ぐわつじふごにち

はつせまうで「初瀬詣で」四〇②

はつね「初音」八卷名V 一七①

はつもとゆひ「初元結ひ」二五⑫

はつゆき「初雪」八作品名V 三①

はて「果て」cf. みのはて

一四⑬ 三三⑤ 三九① 三九⑩

はな「花」cf. きくのはな

一⑨ 一⑫ 六② 七⑫ 八④ 三三⑭

\*三三③ \*三三⑥ \*三三⑬ \*三六⑩ \*三六④

はなこ「花籠」一⑧ 四③ 五⑩

はなざかり「花盛り」三三⑩  
 はなちるさと「花散里」一八⑨ 三三⑪

はなとり「花鳥」二六②

はなのえん「花の宴」八卷名V 一六①

三三⑫  
 はなのえん「花の宴」三三⑧

はなやか・なり「華やかなり」(形動ナ  
 リ活)

一に入用V 三三⑦ 三三②

はな・る「離る」(動下二段) cf. かきは  
 なる・かけはなる

一れ入未V \*三三③

一れ入用V 一六⑦

はね「羽」\*三三③

はは「母」cf. おんはは・しのきみのは

は・ままはは

三① 三三⑤ 三三⑥ 三六⑦

はばか・る「憚る」(動四段) cf. おぢは  
 ばかる

一り入用V 三六⑥ 四〇⑩ 四六② 五〇⑧

ははきぎ「帚木」八卷名V 一五⑬ 一六⑥

ははみや「母宮」二六⑭

はふ「法」三三①

はべ・り「侍り」(動ラ変)



はる「春」ハ⑧ \*一六⑨ \*三三② \*三三④  
 四〇⑪ \*六一④  
 はるか・なり「遙かなり」《形動ナリ活》  
 ーにハ用▽ ハ⑩ 一〇⑭ 五⑥ \*四③  
 ーなるハ体▽ 九⑩ 一⑤  
 はるげ・し「遙けし」《形ク活》  
 ーけれハ已▽ 一⑭  
 はるばる「遙遙」《副》三①  
 はるばると「遙遙と」《副》\*九⑫  
 はれま「晴れ間」二⑪ \*三⑥

ひ

ひ「日」cf.つきひ・ゆふひ  
 一⑬ 三⑤ 七⑩  
 ひがきのこ「桜垣の子」ハ④  
 ひがくしのみ「日隠しの間」\*五④  
 ひがさ「檢笠」四③ 五⑩  
 ひか・し「引かし」cf.かたひかし  
 ひがし「東」cf.みなみひがし  
 ひかり「光」cf.つきのひかり  
 九③ \*一〇⑫ 三⑩ 五①  
 ひかるげんじ「光源氏」三⑧ 二六⑬  
 ひき「弾」cf.びはひき

ひきあそぶ「弾き遊ぶ」《動四段》  
 ーびハ用▽ 六⑨  
 ひきいだす「引き出だす」《動四段》  
 ーしハ用▽ 三③ 六③  
 ひきいゝる「引き入る」《動下二段》  
 ーれハ用▽ 四⑬  
 ひきくくむ「引き包む」《動四段》  
 ーみハ用▽ 六④  
 ひきす・う「引き握う」《動下二段》  
 ーゑハ用▽ 三②  
 ひきす・つ「引き捨つ」《動下二段》  
 ーてハ用▽ 七⑧ 九⑩  
 ひきすま・す「弾き済ます」《動四段》  
 ーしハ用▽ 三①  
 ひきた・つ「弾き立つ」《動下二段》  
 ーてハ用▽ 六⑤  
 ひく「引く」《動四段》  
 ーかハ未▽ 六⑤ 九⑨  
 ひくく「弾く」《動四段》  
 ーくハ体▽ 六⑬  
 ひくげ「比丘偈」cf.ほうべんぼんびく  
 げ  
 ひぐらし「蜩」二⑩  
 ひぐらし「日暮し」三⑬⑭

ひげくろのたいしゃう「髯黒の大將」  
 二〇④ 三⑨  
 ひごろ「日頃」二⑪ 二六⑧ 三六③ 四六⑥  
 ひさ・し「久し」《形シク活》  
 ーしくハ用▽ 五⑥ 五⑫  
 ひじり「聖」cf.しよしゃのひじり  
 ひとおもて「直面」七⑦  
 ひとちのみや「常陸の宮」三⑩  
 ひとふる・なり「頓なり」《形動ナリ活》  
 ーにハ用▽ 四②  
 ひち「肘・肱」一⑧ 四③ 四⑧  
 ひと「人」cf.おほみやびと・おもひび  
 と・かたちびと・ただびと・てんじ  
 やうびと・ときのひと・なきひと・  
 はちでうのひと・ひとびと・またひ  
 と・まめびと・みやづかへびと・れ  
 ののひと  
 一③ 一⑥ 一⑪ 三⑤ 三⑥ 四⑥  
 四⑧ 四⑩ 四⑬ 六⑤ 八② 九②  
 九⑪ 一〇① 二① 二④ 二⑬  
 二⑤ 二⑨ 二⑩ 二⑪ 二⑫  
 三③ 三⑤ 三⑦ 三⑩ 三⑫  
 一七⑩ 一七⑪ 一八⑤ 一八⑥  
 一八⑨ 一九⑤ 一九⑩ 一九⑫ 一九⑬



一けれ入ロ▽ 三〇⑪ 三三〇⑤ 三六〇⑭  
 ひは「琵琶」 六四⑭ 八六⑯  
 ひはだや「椀皮屋」 三三③  
 ひはどののくわうたいごうくわう「枇杷殿  
 の皇太后宮」 六二⑥  
 ひはのほふし「琵琶の法師」 三三⑭  
 ひはひき「琵琶弾き」 八七⑧  
 ひびき「響き」 \*三三⑥  
 ひま「隙」 四四⑩  
 ひむがしやまわたり「東山辺り」 一〇⑩  
 ひめきみ「姫君」 cf. さひんぐつひめき  
 み・たいしやうひめきみ・たまか  
 つらのひめきみ・よしのやまのひめ  
 きみ  
 四三⑫ 六九② 六九⑭ 七〇⑥  
 ひめきみのおんかた「姫君の御方」  
 三三⑨  
 ひやうでう「平調」 六四④  
 ひやうぶきやうのみや「兵部卿の宮」  
 cf. はふひやうぶきやうのみや  
 二〇③ 三二⑦ 三三⑧ 三三④  
 三六⑤ 六七⑭  
 ひやうぶのうた「屏風の歌」 cf. おんび  
 やうぶのうた

ひやうゑのないし「兵衛の内侍」 八七②  
 ひやくしゅ「百首」 cf. しんみんひやく  
 しゅ・ほりかはみんひやくしゅ  
 五①  
 ひやくねん「百年」 八八③  
 ひややか・なり「冷やかかなり」《形動  
 ナリ活》  
 一に八用▽ 四四①  
 一なる八体▽ 六六⑥  
 ひろさは「広沢」 四二② 四四④ 四六②  
 ひろし「広し」《形ク活》  
 一に八用▽ 三〇⑩  
 一き八体▽ 七四⑦  
 ひろめきい・つ「閃めき出づ」《動下二  
 段》  
 一で八用▽ 五〇⑦  
 びん「鬢」 cf. おんびん  
 ふ  
 ふ「生」 cf. あさぢふ  
 ふ「絳」《動下二段》 cf. としふ  
 へ八用▽ 八八③  
 ふ八止▽ 三三⑧  
 ふる八体▽ \*三三⑩「降る」ヲカケル

ぶ「部」 cf. ぢふぶ・せんぶ  
 ぶえ「笛」 四二②  
 ぶかさ「深き」 cf. こころぶかさ・よく  
 ぶかさ  
 ぶか・し「深し」《形ク活》 cf. おくぶか  
 し・こころぶかし・じひぶかし  
 一に八用▽ 三〇⑧ 八三⑬ 三六⑫ 四八②  
 四九⑪ 五四⑭ 六二⑩ 六二②  
 一かり八用▽ 八四⑥  
 一き八体▽ 一九③ \*三六⑬ \*三〇⑫  
 三三⑩  
 ぶか・す「更かす」《動四段》  
 一し八用▽ 五九⑭  
 ぶきあ・く「吹き上ぐ」《動下二段》  
 一げ八用▽ 九一①  
 ぶきこ・ゆ「吹き越ゆ」《動下二段》  
 一ゆる八体▽ 三二②  
 ぶきはら・ふ「吹き払ふ」《動四段》  
 一ふ八体▽ 五七④  
 ぶきわた・る「吹き渡る」《動四段》  
 一り八用▽ 四四①  
 ぶく「服」 六七④  
 ぶ・く「吹く」《動四段》  
 一か八未▽ 七四⑩

いき入用▽ 二六<sup>14</sup> \*三二<sup>7</sup>

―く入止▽ \*三<sup>4</sup>

―く入体▽ \*四七<sup>6</sup> \*七九<sup>5</sup>

ふくる「袋」cf. きやうぶくろ

ふげん「普賢」 四三<sup>3</sup>

ふさは・し「相應し」《形シク活》

―しから入未▽ 二〇<sup>8</sup> 二六<sup>10</sup> \*六<sup>7</sup>

ふし「節」cf. ひとふし・ふしぶし

八<sup>1</sup> 二六<sup>12</sup> 四〇<sup>13</sup> 四二<sup>5</sup> 四四<sup>7</sup>

四九<sup>14</sup> 八六<sup>5</sup>

ふしぶし「節節」 三三<sup>2</sup> 三七<sup>11</sup> 四四<sup>11</sup>

五<sup>3</sup> 三二<sup>2</sup>

ふしわつら・ふ「臥し煩う」《動四段》

―ひ入用▽ 三六<sup>1</sup>

ふしをが・む「伏し拝む」《動四段》

―み入用▽ 二<sup>8</sup>

ふ・す「臥す」《動四段》 cf. ききふす・よりふす

―し入用▽ 三三<sup>6</sup>

ふせい「風情」 六〇<sup>3</sup> 七二<sup>11</sup>

ふだ「札」 八三<sup>9</sup>

ふたぎ「褌」 cf. んふたぎ

ふたこゑ「二声」 三三<sup>10</sup>

ふたたび「二度」 六二<sup>2</sup>

ふたま「二間」 三三<sup>14</sup> 四四<sup>4</sup>

ふたまき「二巻」 三三<sup>10</sup> 三九<sup>13</sup>

ふたり「二人」 一九<sup>14</sup> 九三<sup>5</sup>

ふだんかう「不断香」 四一<sup>1</sup>

ふだんのねんぶつ「不断の念仏」 六三<sup>10</sup>

ふち「淵」 \*二六<sup>13</sup> (一) 藤「ヨカケル」

六<sup>3</sup>

ふちせ「淵瀬」 四三<sup>4</sup>

ふちつほのみや「藤壺の宮」 二六<sup>4</sup>

一七<sup>11</sup>

ふちなみ「藤波」 \*二六<sup>2</sup> (一) ぶち「ニ」淵「ヨカケル」

ヨカケル

ふちのうらは「藤の裏葉」 八巻名▽

一七<sup>3</sup> 三三<sup>10</sup> 三六<sup>5</sup>

ふちのうらは「藤の裏葉」 二五<sup>4</sup>

ふちのうらはのみみ「藤の裏葉の君」

二四<sup>4</sup>

ふで「筆」 一〇<sup>4</sup> 二七<sup>13</sup>

ふなをか「舟岡」 六四<sup>1</sup>

ふね「舟」 三六<sup>12</sup> \*四四<sup>13</sup>

ふみ「文」 cf. おんふみ

九<sup>9</sup> 九二<sup>1</sup> 一〇<sup>1</sup> 三三<sup>14</sup> 三二<sup>12</sup>

三七<sup>4</sup> 三九<sup>13</sup> 三九<sup>11</sup> 四〇<sup>1</sup> 五〇<sup>2</sup>

六二<sup>1</sup> \*二九<sup>9</sup> (一) 踏み「ヨカケル」

ふみども「文ども」 cf. おんふみども

ふゆ「冬」 八<sup>8</sup>

ふゆのよのつき「冬の夜の月」 \*四五<sup>6</sup>

ふら・す「触らす」 cf. いひふらす

ふりがた・し「旧り難し」《形ク活》

―く入用▽ 六<sup>7</sup>

ふ・る「旧る」《動四段》

―り入用▽ 一<sup>6</sup>

ふ・る「降る」《動四段》

―り入用▽ 二<sup>11</sup> 九<sup>7</sup>

―る入体▽ 六<sup>4</sup> 六<sup>6</sup>

ふること「故事」 一〇<sup>7</sup> 三三<sup>12</sup>

ふるさと「故郷」 二九<sup>12</sup> \*三二<sup>7</sup> \*六<sup>4</sup>

ふる・し「古し」《形ク活》

―き入体▽ 二<sup>6</sup> 五<sup>11</sup> 六<sup>10</sup> 七<sup>3</sup>

七<sup>14</sup> 三<sup>8</sup> 五<sup>5</sup> 五<sup>9</sup>

ふるまひ「振舞ひ」 cf. おんふるまひ

四三<sup>11</sup> 八二<sup>14</sup>

ふるめか・し「古めかし」《形シク活》

―し入用▽ 五<sup>4</sup> 六<sup>11</sup>

―しかり入用▽ 四<sup>11</sup>

―しき入体▽ 六<sup>1</sup>

―しけれ入已▽ 六<sup>10</sup>

ふるらか・なり「古らかなり」《形動ナ

リ活)

―なるへ体▽ 三〇

へ

へ「辺」cf.のへ

へ「部」《接尾》cf.らはわへ

へだてな・し「隔て無し」《形ク活》

―くへ用▽ 三二

へん「遍」《接尾》cf.にさんべん

べん「弁」cf.きんただのべん

六六

べんのせうしやう「弁の少將」

三六

べんのものゝ「弁の乳母」 四六 五〇

ほ

ほい「本意」八一

ほいな・し「本意無し」《形ク活》

―かるへ体▽ 一五

ほうし「帽子」八一

ほか「外」cf.おもひのほか・ことのほ

かなり

三三 四六 七〇 七三 七四

ほけあり・く「惚け歩く」《動四段》

―くへ体▽ 六七

ほけきやう「法華経」七〇 一三〇 一四〇

ほけづ・く「法氣付く」《動四段》

―きへ用▽ 八六

ほりか・なり「誇りかなり」《形動ナ

リ活》

―にへ用▽ 三〇

ほさつ「菩薩」cf.せいしばさつ

ほ・す「干す」《動四段》

―しへ用▽ 八〇

ほそ・し「細し」cf.こころほそし

ほそめ「細目」 九三

ほたる「螢」\*八四

ほっけきやう「法華経」cf.ほけきやう

ほっけさいだいいち「法華最第一」

三〇

ほっけだう「法華堂」 九二

ほっけもつともだいいちたり「法華最第

一」cf.ほっけさいだいいち

ほど「程」cf.おんほど・こころのほど・

さほど・ほどほど・みのほど

一三 二一 二六 二八 三〇 三二

七 九 一〇 一一 一二 一三

一四 一五 一六 一七

一六

一九

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一六

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八

一八



八〇⑦ 八〇⑨ 八二③ 八二④ 八二⑭  
 八二⑧ 八四⑬ 八五⑤ 八六⑤ 八七②  
 八七⑥ 八六④ 八六⑧ 八六⑨ 九〇⑪  
 九二⑧ 九二⑫ 九三⑤ 九三⑥ 九七⑦  
 ほどけ「仏」一〇二③ 四二② 五二②  
 五〇⑨ 一四⑬ 一九⑥ 六⑤  
 ほどとぎす「時鳥」二⑫ \*二⑭ 三⑩  
 ほどども「程ども」三④  
 ほどほど「程程」八五④ 八五⑧  
 ほとり「刃」一〇⑫ 一〇⑬  
 ほのか・なり「仄かなり」《形動ナリ活》  
 一に入用▽ 三⑤ 五⑤  
 一なるへ体▽ 八⑦  
 ほのほの「仄仄」《副》四⑤  
 ほふし「法師」cf.びはのほふし  
 四⑬ 三① 五⑩ 六⑫ 六⑦  
 ほふわう「法皇」cf.くまんびやうのは  
 ふわう  
 ほほゑ・む「微笑む」《動四段》  
 一むへ体▽ 六⑥  
 ほ・む「誉む・褒む」《動下二段》  
 一めへ未▽ 八七⑦  
 一めへ用▽ 七⑫ 八七⑥  
 ほら「洞」cf.かすみのほら

ほりかはどの「堀河殿」六三⑦  
 ほりかはるん「堀河院」四③  
 ほりかはるんひやくしゅ「堀河院百首」  
 七⑭  
 ほ・る「惚る」《動下二段》  
 一れへ未▽ 四②  
 ほん「本」一五⑦ 四③ 六④  
 ほんふ「凡夫」一五③ 五②  
 ほんるん「本院」九⑪

ま

ま「間」cf.すきま・すみのま・はれま・  
 ひがくしのま・ふたま  
 \*七⑦ \*三⑧ \*三⑭  
 まう・く「設く」《動下二段》  
 一けへ用▽ 一八⑭ 二四③ 三⑦ 三⑫  
 元④  
 まうし「申」cf.まかりまうし  
 まうしこ・ふ「申し請ふ」《動四段》  
 一ひへ用▽ 一四⑬ 一⑪  
 まう・す「申す」《動四段》cf.まかりま  
 うす  
 一さへ未▽ 五⑫ 七⑬ 七⑭ 五⑧  
 三⑨  
 一しへ用▽ 五⑬ 六④ 九⑨ 二②  
 五⑨ 三① 三① 五⑫ 五⑬  
 五⑥ 七① 七③ 五⑬ 八⑪  
 一すへ止▽ 二⑥ 二② 二④ 二③ 二③  
 六⑩ 六③  
 一すへ体▽ 九⑩ 二④ 二⑩ 二⑤  
 一八⑤ 一八⑦ 三① 三④ 四③  
 七⑪ 七⑭ 七③ 七⑨ 七⑪  
 七④ 七⑨ 七⑨ 七⑨ 八⑧

ハ① 九⑨

まう・つ「詣つ」《動下二段》

一でハ未▽ 二四⑤

一でハ用▽ 六四⑬ 八四⑭

まうで「詣で」cf.はつせまうで

まがき「籬」\*三⑩

まか・す「任す」《動下二段》

一せハ用▽ \*二⑧ 六⑨ 九⑬

まが・ふ「紛ふ」《動四段》

一ふハ体▽ \*二⑬ \*三④

まがまが・し「禍禍し」《形シク活》

一しきハ体▽ 三⑤ 六⑩

まかりまうし「罷り申し」 二九⑫

まかりまう・す「罷り申す」《動四段》

一しハ用▽ 三⑥

まか・る「罷る」《動四段》cf.みもてま

かる

一りハ用▽ 八②

まき「巻」cf.はらちのまき・ふたまき・

まきまき・まきまき・まきまき

一ま⑪ 一五⑮ 一六① 一六③ 一六⑤

一六⑭ 一七④ 一七④ 二九⑪

まきまき「巻巻」 一五⑮ 一六②

まきはは・す「紛らはす」《動四段》

一しハ用▽ 四⑥ 四⑥

まぎれ「紛れ」cf.のわきのまぎれ

ま・く「蒔く」《動四段》

一きハ用▽ \*四⑬

まくら「枕」cf.くさのまくら

三⑧

まくらのさうし「枕の草子」 六⑨ 七②

六⑦ 八⑬

まけ「負け」 三⑩

まこと「真・実・誠」 七⑦ 七⑩

まこと・し「真し・実し」《形シク活》

一しからハ未▽ 四⑧ 四④ 五⑥

五⑩ 五⑬ 六⑭ 六⑤ 七②

まことに「真に・実に・誠に」《副》

三⑩ 二四⑬ 一八④ 二六⑬ 五②

五⑫ 六⑨ 六⑪ 七③ 七⑧

五⑬ 六⑨ 六⑫ 六⑮ 八⑮

八① 九⑥

まきぐり「弄り」cf.てまきぐり

まきぐく・る「弄る」cf.ひまきぐる

まきこ「稚子」 四⑩ 四⑬ 四⑰ 四⑱

三⑤

まな・し「正し」《形シク活》

一しきハ体▽ 六⑭

まなに「正に」《副》 二⑨

まさ・る「勝る・優る」《動四段》cf.た

ちまさる

一りハ用▽ 一五① 二③ 六④ \*八⑫

一るハ止▽ \*八⑫

一るハ体▽ 九⑦

一れハ已▽ \*九①

まして「況して」《副》 七⑥ 八⑥ 一〇③

三③ 三⑧ 三⑫ 三⑰ 七⑨

七⑨ 七⑫ 七⑰ 八⑬

まじらひ・ある「交らひ居る」《動上

段》

一るハ用▽ 一八③

まじら・ふ「交らふ」cf.いでまじらふ

まじ・る「交じる・混じる」《動四

段》cf.さしまじる・たちまじる

一らハ未▽ 九⑬

一りハ用▽ 一⑨ 八⑪

ま・す「増す」《動四段》

一さハ未▽ 六⑮

ま・す「雑す」cf.かきます

一せハ用▽ 一六⑩

また「又」《副・接》 二④ 九② 九⑥

一〇① 一〇② 一〇③ 一〇④ 一〇⑤

|     |     |     |      |      |
|-----|-----|-----|------|------|
| 一五④ | 一六⑦ | 一六⑪ | 一六⑫  | 一七⑫  |
| 一八③ | 一八⑧ | 一八⑫ | 一九①  | 二〇⑥  |
| 二〇⑨ | 二〇⑬ | 二〇⑮ | 二〇⑰  | 二一②  |
| 二二② | 二二⑤ | 二二⑩ | 二二⑬  | 二二⑱  |
| 二九④ | 二九⑧ | 二九⑩ | 二九⑭  | 二九⑲  |
| 三〇⑨ | 三〇⑬ | 三〇⑰ | 三〇⑳  | 三一①  |
| 三二⑤ | 三二⑫ | 三二⑮ | 三二⑳  | 三三④  |
| 三三⑩ | 三三⑭ | 三三⑰ | 三三⑳  | 三四③  |
| 三六④ | 三六⑥ | 三六⑧ | 三六⑩  | 三六⑱  |
| 四〇⑭ | 四〇⑰ | 四〇⑳ | 四〇㉑  | 四一③  |
| 四二⑦ | 四二⑪ | 四二⑮ | 四二⑳  | 四三⑬  |
| 四四⑩ | 四四⑭ | 四四⑰ | 四四⑳  | 四五③  |
| 四六④ | 四六⑥ | 四六⑧ | 四六⑩  | 四六⑱  |
| 四八⑧ | 四八⑪ | 四八⑮ | 四八⑳  | 四九⑤  |
| 五〇⑫ | 五〇⑰ | 五〇⑳ | 五〇㉑  | 五一③  |
| 五二⑥ | 五二⑮ | 五二⑳ | 五二㉑  | 五三②  |
| 五五⑩ | 五五⑰ | 五五⑳ | 五五㉑  | 五六②  |
| 五七④ | 五七⑧ | 五七⑪ | 五七⑭  | 五七⑳  |
| 五九⑧ | 五九⑫ | 五九⑱ | 五九㉑  | 六〇③  |
| 六一② | 六一⑥ | 六一⑨ | 六一⑫  | 六一⑱  |
| 六三⑥ | 六三⑩ | 六三⑬ | 六三⑱  | 六四②  |
| 六五⑩ | 六五⑭ | 六五⑱ | 六六②  | 六六⑥  |
| 六七④ | 六七⑧ | 六七⑪ | 六七⑭  | 六七⑱  |
| 六九⑧ | 六九⑫ | 六九⑱ | 七〇③  | 七〇⑧  |
| 七一② | 七一⑥ | 七一⑨ | 七一⑫  | 七一⑱  |
| 七三⑥ | 七三⑩ | 七三⑬ | 七三⑱  | 七四③  |
| 七五⑩ | 七五⑭ | 七五⑱ | 七六③  | 七六⑧  |
| 七七④ | 七七⑧ | 七七⑪ | 七七⑭  | 七七⑱  |
| 七九⑧ | 七九⑫ | 七九⑱ | 八〇③  | 八〇⑧  |
| 八一② | 八一⑥ | 八一⑨ | 八一⑫  | 八一⑱  |
| 八三⑥ | 八三⑩ | 八三⑬ | 八三⑱  | 八四③  |
| 八五⑩ | 八五⑭ | 八五⑱ | 八六③  | 八六⑧  |
| 八七④ | 八七⑧ | 八七⑪ | 八七⑭  | 八七⑱  |
| 八九⑧ | 八九⑫ | 八九⑱ | 九〇③  | 九〇⑧  |
| 九一② | 九一⑥ | 九一⑨ | 九一⑫  | 九一⑱  |
| 九三⑥ | 九三⑩ | 九三⑬ | 九三⑱  | 九四③  |
| 九五⑩ | 九五⑭ | 九五⑱ | 九六③  | 九六⑧  |
| 九七④ | 九七⑧ | 九七⑪ | 九七⑭  | 九七⑱  |
| 九九⑧ | 九九⑫ | 九九⑱ | 一〇〇③ | 一〇〇⑧ |

- 六四⑨ 六六⑧ 六七⑬ 六八⑬ 六九③
- 六九⑧ 六九⑪ 六九⑭ 六九⑯ 六九⑲
- \*九一⑭ 九二① 九二⑭ 九三② 九三⑭
- 九三⑯
- まだ「未だ」《副》 三二⑫ 八〇⑩ \*四六⑩
- \*八三⑨
- またひと「又人」 \*六七⑦
- まちい・つ「待ち出づ」《動下二段》
- で八用V 二⑩
- まちつ・く「待ち付く」《動下二段》
- け八用V 一九③ 三三⑤
- まち・みる「待ち見る」《動上二段》
- み八用V 語⑪
- まつ「松」 cf.すゑのまつ・わかまつ
- \*三三③「待つ」ヲカケル 五七⑩「待  
つ」ヲカケル 八五⑦「待つ」ヲカ  
ケル
- ま・つ「待つ」《動四段》
- た八未V \*五五⑥ 四三⑥
- ち八用V 二⑩
- つ八止V \*三三⑨ \*五五⑭
- まつ「先づ」《副》 二⑦ 四② 一五⑧
- 三三② 二四⑨ \*三三⑭ 六二⑫ 六三③
- 九二⑨
- まつむし「松虫」 三六⑥
- まつらのみや「松浦の宮」 入作品名V
- 七二⑩
- まど・ふ「惑ふ」《動四段》
- は八未V 三三⑩
- ひ八用V 六⑨
- ふ八止V \*四六⑫
- ふ八体V 四九④
- まどる「円居」 \*五〇⑨
- まね「真似」 語⑩ 六②
- まねび「学び」 cf.ものまねび
- まねびそん・ず「学び損ず」《動サ変》
- じ八用V 五八⑧
- まねびな・す「学び為す」《動四段》
- さ八未V 四三⑭
- まね・ぶ「学ぶ」《動四段》
- び八用V 六四⑩ 六六⑩
- ぶ八体V 八六⑭
- まは・る「回る」 cf.たちまはる
- まへ「前」 cf.おまへ・おんまへ・めの  
まへ
- 三三⑧ 七〇⑦
- まほ・なり「真秀なり」《形動ナリ活》
- なら八未V 一八⑩

まぼ・る「守る」《動四段》

ーらへ未▽ 三二⑥

まぼろし「幻」へ巻名▽ 一七⑤ 三三⑧

三四③

まぼろし「幻」 \* 三六③

まま「儘」 八〇③

ままに「儘に」《副》 一⑥ 一⑫ 二③

四六④

ままは「継母」 三〇⑬

まめた・つ「忠実立つ」《動四段》

ーちへ用▽ 二⑨

まめ・なり「忠実なり」《形動ナリ活》

ーにへ用▽ 六⑤

まめびと「忠実人」 一八⑫ 二⑦ 二四⑬

三五⑦ 三五⑭ 三五⑯ 三七⑬

まめびとのたいしやう「忠実人の大将」

一六⑪ 二五② 三〇② 三九⑫

まめびとのたいしやうのきたのかた「忠実人の大将の北の方」 三③

実人の大将の北の方

まめまめしげ・なり「忠実忠実し気な

り」《形動ナリ活》

ーなるへ体▽ 二七③

まめやか・なり「忠実やかなり」《形動

ナリ活》

ーにへ用▽ 五⑦

まも・る「守る」《動四段》

ーりへ用▽ 三〇④

まよひ「迷ひ」 \* 三九⑨

まよ・ふ「迷ふ」《動四段》

ーはへ未▽ 六①

ーひへ用▽ 二六⑩

ーふへ体▽ \* 三七⑦

まれ・なり「稀なり」《形動ナリ活》

ーなるへ体▽ 九④

まるね「丸寝」 五⑧

まゐら・す「参らす」《動下二段》

ーせへ未▽ 八⑩

ーせへ用▽ 六② 六九③ 八三⑪

ーすへ止▽ 八⑨

まゐら・す「参らす」《補助下二段》

ーせへ未▽ 八⑧

まゐりあり・く「参り歩く」《動四段》

ーきへ用▽ 三⑤

まゐりなる・る「参り馴る」《動下二段》

ーれへ用▽ 六⑦

まゐ・る「参る」《動四段》

ーらへ未▽ 四③

ーりへ用▽ 三⑦ 二② 四⑥ 六①

六⑤ 六⑥ 六⑬ 六⑭ 六⑰ 六⑱

八⑨⑩ 八⑪⑫ 九⑬⑭ 九⑮⑯ 九⑰⑱

三⑥

ーるへ体▽ 三① 九⑧ 九⑨ 七⑪

まんえふしふ「万葉集」 六② 七⑫

三⑩ 三⑪ 七⑦

まんどころ「政所」 cf. きたのまんどこ

ろ

## み

み「身」 cf. うきみ・おんみ・わがみ

四⑬ 五⑤ 五⑧ 九② 三⑨ 三⑩ 三⑪

三④ 三⑦ \* 三③③ \* 三②② 四②②

四⑪ \* 四⑪ 四⑬⑭ 四⑮⑯ 四⑰⑱

三⑪ 三⑫ 三⑬ 三⑭ 三⑮ 三⑯ 三⑰

三③④ 三⑤⑥ 三⑦⑧ 三⑨⑩ 三⑪⑫ 三⑬⑭

七⑥ 七⑧ 七⑨ \* 七⑪ 八⑦⑧

み《接尾》 \* 元④ 三⑬⑭ 三⑱

みあは・す「見合はす」《動下二段》

ーせへ用▽ 六⑥

みあらは・す「見頭はす」《動四段》

ーしへ用▽ 二④④

みあり・く「見歩く」《動四段》

ーきへ用▽ 三②

みいだ・す「見出だす」《動四段》

―し八用V 五四④

みい・づ「見出づ」《動下二段》

―で八用V 三〇⑨

―で八用V 二〇①

みえおよ・ぶ「見え及ぶ」《動四段》

―び八用V 六〇③

みえわた・す「見え渡す」《動四段》

―し八用V 三三⑬

みお・く「見置く」《動四段》

―き八用V 六九⑬

みおくりきこえ「見送り聞こえ」 三三①

みおこ・す「見遣す」《動下二段》

―せ八用V 三〇④

みおぼ・ゆ「見覚ゆ」《動下二段》

―え八用V 三二⑭

みかうし「御格子」 九四③

みかど「帝」cf.ていじのみかど・るん

のみかど

一七⑭ 三六⑦ 三七⑬ 四三⑥ 四四⑭

三〇⑪ 三二⑭ 四一① 九〇⑤ 九二⑪

九六①

みかど「御門」 九六⑪

みかはにさげる八作品名V 六〇⑤

みき「神酒」cf.おんみき

みき・く「見聞く」《動四段》

―き八用V 八七⑭

みくしげどの「御匣殿」 六八⑧

みくづ「水屑」 \*三二⑦

みぐる・し「見苦し」《形シク活》

―しく八用V 六四 三三⑥

―しき八用V 六七 三三⑭

みぐるしげ・なり「見苦し気なり」《形

動ナリ活》

―なる八用V 四七

みこ「巫女」 五七⑨

みこ「御子」 三三⑩

みこころ「御心」cf.おんこころ

二〇⑨

みじか・し「短し」《形ク活》

―かり八用V 八二⑫

みし・る「見知る」《動四段》

―り八用V 八二⑧

みじろぎ「身動き」 八七⑫

みす「御簾」 四〇⑤

み・す「見す」《動下二段》

―せ八用V \*三④ 四七⑤ 七二⑫

―せ八用V 三三⑬

みそ・む「見初む」《動下二段》

―め八用V 五二⑦

みだう「御堂」 二③

みだりがは・し「濫りがはし」《形シク

活》

―し八用V 五七⑦

―しく八用V 五二⑪

―しき八用V 四七⑭

みだ・る「乱る」cf.おもひみだる

みだれあ・ふ「乱れ合ふ」《動四段》

―ひ八用V 五二⑥

みち「道」cf.うたのみち

一⑤ 一⑫ 八⑥ 一一① 一一②

三⑩ \*三⑬ \*六④ 七⑦ 七⑭

\*八⑥ 八⑧ \*九⑨ \*九⑬③

みちしは「道芝」 四二③

みちのぶのちゅうじやう「道信の中將」

五二⑫

み・つ「満つ」cf.くゆりみつ

みつ「水」cf.やりみつ・わすれみつ

\*三⑪

みつから「自ら」《副》 八〇⑦ 八〇⑩

みつ・く「見付く」《動下二段》

―け八用V 三九⑭ 四〇②

みつのはままつ「みつの浜松」△作品

名▽ 三〇②

みどころ「見所」二⑦ 一五⑭ 一七②

一七④ 五九② 五九⑦ 五九⑩ 六〇①

塩⑭

みとせ「三歳」cf. やそぢあまりみとせ

みな「皆」《副》二六⑥ 三三⑥ 六〇①

六〇⑬ 六六⑦ 七三⑧

みな・す「見為す」《動四段》

―し△用▽ 四⑫

みなと「港」\* 四⑬

みなみおもて「南面」三⑨ 三⑭ 三⑳

みなみひがし「南東」四④

みな・る「見馴る」《動下二段》

―れ△用▽ 三⑫ \* 三六⑨ △み△身

ユカケル

みね「峰」\* 四⑮

みの「義」三六⑬

みのけ「身の毛」八②

みのはて「身の果て」三④

みのほど「身の程」三六②

みのり「御法」△卷名▽ 一七⑤

みはかし「御佩刀」六四⑤

六四④

みは・つ「見果つ」《動下二段》

―てよ△命▽ 四⑭

みまう・し「見ままし」《形ク活》

―く△用▽ 一⑩

みまほしさ「見まほしさ」八⑭

みみ「耳」三六⑭ 三六⑱ 六六⑫

みみだた・し「耳立たし」《形シク活》

―しから△未▽ 三④

みみとま・る「耳留まる」《動四段》

―り△用▽ 三⑬

みめ「眉目」cf. おんみめ

一六④ 一九⑫ 三六⑧

みもてまか・る「見持て罷る」《動四段》

―る△体▽ 三④

みもてゆ・く「見持て行く」《動四段》

―く△体▽ 三⑥

みや「宮」cf. あさがほのみや・おねみ

や・いっばんのみや・げんじのみや・な

・きさいのみや・げんじのみや・ち

んのみや・しきぶきやうのみや・ち

ちみや・にほふひやうぶきやうのみ

や・ははみや・ひたちのみや・ひや

うぶきやうのみや・ふちつばのみや

・みやみや・よもぎのみや・わかみ

や・をんなみや

六九⑭ 八① 九③

みやうがうのか「名香の香」四②

みや「都」二⑨ 三⑤ \* 二六⑨ 二六⑫

三②

みやごどり「都鳥」三①

みやすどころ「御息所」cf. いせのみや

すどころ・ろくでうのみやすどころ

三六⑧

みやづかへ「宮仕へ」八⑭ 八⑮

みやづかへびと「宮仕へ人」三⑬

一八⑨ 七⑦

みやのさいしやう「宮の宰相」六⑨

みやのせんじ「宮の宣旨」八⑨

みやのたいしやう「宮の大將」三③

三⑤

みやのちゆうじやう「宮の中將」四⑩

みやばら「宮腹」三②

みやみや「宮宮」四⑩

み・ゆ「見ゆ」《動下二段》

―え△未▽ 一⑪ 二⑥ 三⑦ 三④

三六⑫ 四⑭ \* 七⑧

―え△用▽ 四① 一四⑩ 一八⑥ \* 三⑥

四〇① 五九⑫ 七〇③ 七二① 七三③  
七七 七九⑪ \*七九⑬ 七九⑫ 八〇⑬  
八七⑩ 八八⑥ 九二⑫

―ゆへ止▽ 三④ 三⑪ 七⑥

―ゆるへ体▽ 三⑬ 二⑭ \*四⑫

―ゆれへ已▽ 三⑪ 六② \*三⑬

みゆき「御幸」 \*九〇⑧ (「み雪」ヲカケル) 九三①

みよ「御世」 六⑥ 七⑦

みる「見る」《動上一段》 cf.あひみる・

うちみる・まちみる・みるみる

みへ未▽ 八⑩ \*三⑫ \*四⑩ 五⑩

\*八⑨ 九⑫

みへ用▽ 二⑦ 四⑭ 六① 九⑪

一三⑦ 一五③ 一五⑦ 二〇⑤

三五⑫ 二五⑭ \*六⑧ \*九③ 二九⑩

\*元⑬ 二九⑭ \*三⑤ 三〇⑭ 三三⑤

三三⑦ 三⑥ 三六⑩ 三六③ \*四⑧

三三③ 三三⑧ 三六④ 三六⑪ 三六⑬

五九⑪ 五九⑭ 六⑬ 六三⑫ 六五⑤

六七⑭ 六九⑫ 七⑤ 七五⑨ 七五⑩

七② 七九⑫ 八⑦ 八三⑨ 八四⑭

\*六④ 八九② 九① 九四⑥ 一〇①

みるへ止▽ 四⑫ 三九① \*四⑨

\*一⑭  
みるへ体▽ 九⑥ 九⑭ 一〇③ 二②

二⑫ 一九④ 三⑧ \*三② \*五⑥

四⑤ 五① 五⑤ 六④ 六⑬

六⑬ 七⑪ \*八④ \*八⑩ \*八①

みれへ已▽ 三⑥ 三⑨ \*三⑫

みるみる「見る見る」《連》 六②

みるめ「見る目」 \*三⑭ (海松布)ヲカケル)

みわた・す「見渡す」《動四段》

―せへ已▽ 三②

みわ・ぶ「見佐ぶ」《動上一段》

―びへ用▽ 五⑤

む

むかし「昔」 一⑥ 二⑤ 四⑬ 五⑧

八⑨ 八⑭ 一〇① 二① 二⑪ 二七②

三⑥ \*六④ \*五⑨ 五⑫ 六九⑪

七⑬ 七⑩ 七① 七⑧ 八⑥

八⑨ 八⑥ 八⑫ 八七⑦ 九⑭

九⑪ 九⑭

むかしがたり「昔語り」 五⑩

むかしながら「昔ながら」《副》 一〇⑥

一九②

むかしのちぎり「昔の契り」 九③

むかひ「向かひ」 三⑥

むかひ・ある「向かひ居る」《動上一段》

―へ用▽ 二④①

むか・ふ「向かふ」《動四段》 cf.あひむかふ・うちむかふ・さしむかふ

―ひへ用▽ 八① 四③ 六②

むか・ふ「迎ふ」《動下一段》

―へへ用▽ 三九⑫ 五③④

むくい「報い」 六⑨

むくつけ・し《形ク活》

―けれへ已▽ 四③

むぐらのかど「律の門」 \*四⑤

むげに「無下に」《副》 二⑩ 三③ 五①

一六③ 二④ 二④① 二④⑥ 二④⑪

四② 五⑨ 五⑦ 五⑩ 六③

六⑦ 六⑩ 六五⑫ 六六④ 六六⑪

六八⑭ 六九⑨ 七③ 七⑩ 八〇⑩

九三⑦ 九三⑨ 九三⑬

むこ「婿」 cf.おんむこ

二⑦ 三⑭ 六②⑥

むさしの「武蔵野」 \*三⑫

むさん「無三」 cf.むにやくむさん

むし「虫」 cf.まつむし

壹⑭

むしのね「虫の音」 \* 壹⑦

むす・ぶ「結ぶ」《動四段》

―び入用▽ 三三⑩ 呉⑧ 六三①

むすほほ・る「結ばほる」《動下二段》

―れ入用▽ \* 三三⑥

むすめ「女」cf.おほにでうどののむす

め・だいがむすめ・だいにのむす

め・とりむすめ・もとすけがむすめ

三① 六三②

むつかしげ・なり「難し気なり」《形動

ナリ活》

―なる入体▽ 三三⑫

むつ・ぶ「睡ぶ」cf.なれむつぶ

むつま・し「睡まし」《形シク活》

―しき入体▽ \* 六三⑧

むな・し「空し」《形シク活》

―しく入用▽ 四三④

むにやくむさん「無二亦無三」 一三⑨

むね【胸】 四三⑥

むね【棟】 三三③

むねと「宗と」《訓》 五三⑧

むばたまの《枕詞》 \* 六三④

むまこ【孫】 六三⑭

むま・る「生まる」《動下二段》

―れ入用▽ 一③ 三三⑧ 五三③ 五三⑨

六三④

むまれあふ「生まれあふ」《動四段》

―ひ入用▽ 二三⑩

むめ【梅】 三三⑦

むら【藪】cf.むらむら

むらかみ【村上】 六三⑤

むらぐも【群雲】 \* 五三⑦

むらさき【紫】入人名▽ 三三⑭

むらさきしきぶ【紫式部】 一三③ 七三②

六三⑨ 六三①

むらさきのうゝ【紫の上】 一六⑭ 一七⑩

三三⑩ 三三⑭ 三六⑩ 三〇④

三三⑨ 三三④ 三三⑪ 三三⑭ 三六⑩

三三④

むらとり【群鳥】 \* 五三③

むらむら【叢々】 三三⑪ 六三①

め

め【目】cf.おんめ・ひとめ・ひとめ

(一)目(・ひとめ)入目(・ほそめ・み

め・みるめ

六三⑭ 五三⑭ 六三⑭ 六三⑭

め【妻】cf.せうしがめ

めかし《接尾》cf.いまめかし・いろめ

かし・こめかし・じゃうずめかし・

ふるめかし

めかす《接尾》cf.ときめかす

めく《接尾》cf.いろめく・ときめく・

やまざとめく

めぐりあ・ふ「巡り逢ふ」《動四段》

―は入未▽ \* 五三⑥

―ひ入用▽ \* 五三④

―ふ入体▽ \* 五三⑧

めざま・し「目覚まし」《形シク活》

―しき入体▽ 六三⑬

めしい・つ「召し出つ」《動下二段》

―で入未▽ 六三⑭

―で入用▽ 二四⑤

め・す「召す」《動四段》cf.おほしめす

―し入用▽ 六三⑨

―す入止▽ 五三③

め・づ「愛づ」《動下二段》

―で入用▽ 四三②

めつざいしやうぜん「滅罪生善」 五三⑨

めづらか・なり「珍かなり」《形動ナリ

活》





もどか・し〔形シク活〕  
—しき入体V 三三⑪

もとすけがむすめ「元輔が女」 八〇⑧  
もとたち「本立ち」 五七⑨

もどどり「醫」 五九⑨

もとのうへ「旧の上」 五九⑫

もとゆひ「元結」 cf. はつもとゆひ

もとより「元より」《副》 五九⑥

もの「物」 cf. さるものにて・たきもの・

ものから・ものの・ものを

八⑤ 八⑧ 九⑩ 九⑪ 一〇③ 一〇⑧

一一⑦ 一二⑧ 一二⑨ 一二⑩ 一二⑪

一三④ 一三⑤ 一三⑥ 一三⑦ 一三⑧

一四② 一四③ 一四④ 一四⑤ 一四⑥

一五⑨ 一五⑩ 一五⑪ 一五⑫ 一五⑬

一六⑨ 一六⑩ 一六⑪ 一六⑫ 一六⑬

一七③ 一七④ 一七⑤ 一七⑥ 一七⑦

一八③ 一八④ 一八⑤ 一八⑥ 一八⑦

一九③ 一九④ 一九⑤ 一九⑥ 一九⑦

二〇③ 二〇④ 二〇⑤ 二〇⑥ 二〇⑦

二一③ 二一④ 二一⑤ 二一⑥ 二一⑦

二二③ 二二④ 二二⑤ 二二⑥ 二二⑦

二三③ 二三④ 二三⑤ 二三⑥ 二三⑦

二四③ 二四④ 二四⑤ 二四⑥ 二四⑦

二五③ 二五④ 二五⑤ 二五⑥ 二五⑦

二六③ 二六④ 二六⑤ 二六⑥ 二六⑦

二七③ 二七④ 二七⑤ 二七⑥ 二七⑦

三二⑫ 三三⑫ 三三⑬ 三三⑭ 三三⑮

三四⑨ 三四⑩ 三四⑪ 三四⑫ 三四⑬

ものいひ「物言ひ」 五〇⑥

ものい・ふ「物言ふ」《動四段》

—ひ入用V 五九⑪

ものいみ「物忌み」 cf. おんものいみ

ものおそろ・し「物恐ろし」《形シク活》

—しく入用V 五九⑫

ものおほ・ゆ「物覚ゆ」《動下二段》

—ゆる入体V 三三⑬

ものおもはしげ・なり「物思はし気な

り」《形動ナリ活》

—なる入体V 三三⑭

ものおも・ふ「物思ふ」《動四段》

—は入未V 五九⑯

—へ入已V 一六⑰ \*三⑱

ものがたり「物語」 cf. いせものがたり

・こものがたり・やまとものがたり

・ゑものがたり

七⑭ 二二⑭ 二二⑮ 二二⑯ 二二⑰

三〇⑨ 三〇⑩ 三〇⑪ 三〇⑫ 三〇⑬

三三④ 三三⑤ 三三⑥ 三三⑦ 三三⑧

三六⑥ 三六⑦ 三六⑧ 三六⑨ 三六⑩

三九① 三九② 三九③ 三九④ 三九⑤

四二① 四二② 四二③ 四二④ 四二⑤

四五① 四五② 四五③ 四五④ 四五⑤

四八① 四八② 四八③ 四八④ 四八⑤

ものがたり・す「物語す」《動サ変》  
—し入用V 五九⑱

ものがたりども「物語ども」 五九⑲

七〇⑤

ものごと「物毎」 一六⑳

ものごのみ・す「物好みす」《動サ変》

—し入用V 五九㉑

もの・し「物し」《形シク活》

—し入止V 五九㉒

もの・す「物す」《動サ変》

—せ入未V 五九㉓

—し入用V 五九㉔

—す入止V 五九㉕

ものども「物ども」 五九㉖ 七〇⑥

ものけ「物の怪」 一九⑰ 六六②

ものね「物の音」 六六③

ものふ「武士」 一一⑰

ものはかなさ「物果敢無し」 二六⑳

ものはかな・し「物果敢無し」《形ク活》

—かり入用V 二〇⑥

ものまねび「物字び」 六〇④ 六六③

ものゑんじ「物怨じ」 五三③

もみぢ「紅葉」 七〇⑥ 八④

もみぢのが「紅葉の賀」 八卷名V 一六①

も・む「揉む」cf.いられもむ

ももしき「百敷き」<sup>五</sup><sub>14</sub>

ももよ「百夜」<sup>八</sup><sub>3</sub> <sup>八</sup><sub>7</sub> <sup>八</sup><sub>14</sub>

も・ゆ「燃ゆ」《動下二段》

一えへ未<sup>三</sup><sub>8</sub> <sup>三</sup><sub>8</sub>

一えへ用<sup>三</sup><sub>13</sub> <sup>三</sup><sub>13</sub>

もよほし「催し」<sup>八</sup><sub>5</sub> <sup>二</sup><sub>2</sub>

もよほ・す「催す」《動四段》

一さへ未<sup>二</sup><sub>4</sub> <sup>二</sup><sub>4</sub>

もら・す「漏らす」cf.かきもらす

もり「守」cf.せきもり

もろこし「唐土」<sup>八</sup><sub>10</sub> <sup>三</sup><sub>10</sub> <sup>三</sup><sub>10</sub>

もろこしのしんわう「唐土の親王」

<sup>三</sup><sub>7</sub> <sup>三</sup><sub>3</sub>

もろとも「諸共に」《副》<sup>三</sup><sub>3</sub> <sup>四</sup><sub>4</sub>

<sup>二</sup><sub>12</sub> <sup>八</sup><sub>10</sub>

もん「門」cf.しょうめいもん・だいま

ん・ちゅうもん

もんじ「文字」cf.いちもんじ

もんりん「門院」cf.くわうかもんりん

じゃうとうもんりん

や

や「屋」cf.ひはだや

やう「様」cf.いまやう・かやうなり

<sup>三</sup><sub>7</sub> <sup>二</sup><sub>4</sub> <sup>二</sup><sub>4</sub> <sup>二</sup><sub>9</sub> <sup>一</sup><sub>13</sub>

<sup>三</sup><sub>5</sub> <sup>二</sup><sub>6</sub> <sup>三</sup><sub>2</sub> <sup>三</sup><sub>13</sub> <sup>三</sup><sub>1</sub>

<sup>三</sup><sub>9</sub> <sup>五</sup><sub>11</sub> <sup>三</sup><sub>3</sub> <sup>八</sup><sub>1</sub> <sup>八</sup><sub>6</sub>

<sup>六</sup><sub>14</sub>

やうかは・る「様変はる」《動四段》

一りへ用<sup>二</sup><sub>6</sub> <sup>一</sup><sub>13</sub> <sup>三</sup><sub>5</sub> <sup>六</sup><sub>13</sub>

やうやう「漸う」《副》<sup>四</sup><sub>8</sub> <sup>一</sup><sub>13</sub> <sup>三</sup><sub>5</sub> <sup>六</sup><sub>13</sub>

やがて「爰て」《副》<sup>七</sup><sub>8</sub> <sup>七</sup><sub>4</sub>

や・く「焼く」《動四段》

一くへ体<sup>二</sup><sub>13</sub> <sup>二</sup><sub>13</sub>

やさ・し「優し」《形シク活》

一しくへ用<sup>九</sup><sub>12</sub> <sup>九</sup><sub>12</sub>

やしなひきみ「養ひ君」<sup>一</sup><sub>8</sub> <sup>12</sup>

や・す「瘦す」《動下二段》cf.おもやす

一せへ用<sup>三</sup><sub>2</sub> <sup>三</sup><sub>2</sub>

やす・し「安し」《形ク活》cf.こころやすし・めやすし

一かりへ用<sup>二</sup><sub>14</sub> <sup>二</sup><sub>14</sub>

やすまさ「保昌」<sup>八</sup><sub>3</sub> <sup>三</sup><sub>3</sub>

やす・む「休む」《動四段》

一みへ用<sup>七</sup><sub>10</sub> <sup>七</sup><sub>10</sub>

やすらひ「休らひ」<sup>五</sup><sub>6</sub> <sup>三</sup><sub>6</sub>

やそちあまりみとせ「八十余り三歳」

<sup>二</sup><sub>2</sub>

やつ・す「肖す」《動四段》cf.もてやつす

一しへ用<sup>五</sup><sub>5</sub> <sup>五</sup><sub>5</sub>

やつはし「八橋」<sup>五</sup><sub>1</sub> <sup>一</sup><sub>1</sub>

やど「宿」<sup>三</sup><sub>7</sub> <sup>三</sup><sub>2</sub> <sup>三</sup><sub>10</sub> <sup>三</sup><sub>10</sub>

やど・る「宿る」《動四段》

一りへ用<sup>三</sup><sub>11</sub> <sup>三</sup><sub>11</sub>

一れへ已<sup>三</sup><sub>12</sub> <sup>三</sup><sub>12</sub>

やはら・ぐ「和らぐ」《動四段》

一ぐへ体<sup>二</sup><sub>7</sub> <sup>二</sup><sub>7</sub>

やぶ・る「破る」《動四段》

一りへ用<sup>六</sup><sub>9</sub> <sup>六</sup><sub>9</sub>

やぶ・る「破る」《動下二段》

一れへ用<sup>六</sup><sub>1</sub> <sup>六</sup><sub>1</sub>

やま「山」cf.おくやま・おほうちやま

・おほえやま・しでのやま・とりへやま

<sup>三</sup><sub>14</sub> <sup>五</sup><sub>14</sub> <sup>三</sup><sub>3</sub>

やまさど「山里」<sup>六</sup><sub>7</sub> <sup>七</sup><sub>7</sub>

やまざとめ・く「山里めく」《動四段》

—き入用▽ 三〇 三二

やま・し「疾し」《形シク活》 cf. ころろ

やまし

やまぢ「山路」 cf. しでのやまぢ

やまと「日本」 三三 三六 三九

やまと「大和」入作品名▽ 三二 三六

やまとせんじ「大和宣旨」 九二

やまとものがたり「大和物語」 三〇

三三

やまのは「山の端」 \*八四 三

やまひ「病」 cf. つきごとのやまひ

六六 八二 八七

やまびこ「山彦」 五七

やみ「闇」 二六 三〇 三三

や・む「止む」《動四段》

—み入用▽ 一四 一八 二二 三三 四六 四九

三三 三七 三九

—む入止▽ 二六

やむことな・し《形ク活》 cf. やんごと

なし

ややま・し《形シク活》

—しき入体▽ 二〇 二二

やり「遣り」 cf. ひとやち

やりつつ・く「遣り続く」《動下二段》

—け入用▽ 六七 七〇

やりみつ「遣り水」 三三 三六 三九

や・る「破る」《動四段》

—り入用▽ 三三 三六

や・る「遣る」《動四段》 cf. いひやる・

おもひやる・つつやる

—り入用▽ 三三 三六 三九

やをら《副》 三三

やんことな・し《形ク活》

—く入用▽ 六六 六九

—き入体▽ 二二 二五

ゆ

ゆか・し「床し」《形シク活》 cf. おくゆ

かし

—しき入体▽ 四〇 \*九〇 九四

ゆかしげ・なり「床し気なり」《形動ナ

リ活》

—に入用▽ 三三 三六

ゆかり「縁」 cf. うぢのゆかり・ゆふが

ほのゆかり

ゆき「雪」 cf. かしらのゆき

七〇 八四 三三 三六 三九 四六 五〇 五三 五七

六四 六六 六八 七〇 七二 七四 七六 七八 八〇 八二 八四 八六 八八 九〇 九二 九四 九六 九八 一〇〇

一〇七 一〇九

ゆきあ・ふ「行き逢ふ」《動四段》

—ひ入用▽ 三三 三六 三九 四二 四五 四八 五一 五四 五七 六〇 六三 六六 六九 七二 七五 七八 八一 八四 八七 九〇 九三 九六 九九

六四 七〇 七六

ゆきす・ぐ「行き過ぐ」《動上二段》

—ぎ入用▽ \*三三 三六 三九 四二 四五 四八 五一 五四 五七 六〇 六三 六六 六九 七二 七五 七八 八一 八四 八七 九〇 九三 九六 九九

ゆきちが・ふ「行き違ふ」《動四段》

—ふ入体▽ 六六

ゆきとま・る「行き止まる」《動四段》

—ら入未▽ 一四

ゆきひらのそち「行平の帥」 三二

ゆ・く「行く」《動四段》 cf. おゆみゆく

・ ころろゆく・たえゆく・たづねゆく・なりゆく・みもてゆく

—き入用▽ \*三三 三六 三九 四二 四五 四八 五一 五四 五七 六〇 六三 六六 六九 七二 七五 七八 八一 八四 八七 九〇 九三 九六 九九

六七

—く入体▽ \*三三 三六 三九 四二 四五 四八 五一 五四 五七 六〇 六三 六六 六九 七二 七五 七八 八一 八四 八七 九〇 九三 九六 九九

ゆくかた「行く方」 \*三三 三六

ゆくさき「行く先」 八〇 一三二

ゆふ「夕」 cf. あさゆふ

ゆふがほ「夕顔」入人名▽ 二〇 二二 二四 二六

三九

ゆふがほ「夕顔」入卷名▽ 一五 一七

ゆふがほのゆかり「夕顔の縁り」二〇七

ゆふぎり「夕霧」ハ巻名V 元八

ゆふだち「夕立ち」三九四

ゆふづくよ「夕月夜」ハ七

ゆふつげどり「夕告げ鳥」\*三二五

ゆふひ「夕日」二二

ゆふべ「夕べ」\*二八八 三三三 \*三三六

ゆめ「夢」二〇三 二〇四 二〇三 \*三三六

ゆめち「夢路」\*三六二

ゆるが・す「揺がす」《動四段》

―しハ用V 五九

ゆるし「許し」四八〇

ゆる・す「許す」《動四段》

―さハ未V 六五 七四

―すハ体V 二四四

ゆゑ「故」cf. おんゆゑ・それゆゑ

一七三 三三〇 二七六 \*三三〇

よ

よ「世」cf. いまのよ・うきよ・このよ・

さきのよ・すゑのよ・のちのよ・み

よ・よよ

一七 五九 一〇八 二一六 二二五

二二四 二四九 一八一 一九三

\*三三六 三三七 四四一 \*四六六

\*三三〇 五二二 五二二 \*三三九

七三 七五 八〇五 八四〇 八五二

八七三 九二二 九六一

よ「夜」cf. ひとよ・ももよ・ゆふづく

よ・よよ

八九 二八九 三三〇 三九四

四四四 \*四四八 五二八 \*六二四 六九二

七〇三 七九九 九〇七 九三三

よう「用」五三〇

ようい「用意」cf. おんようい

ようい・す「用意す」《動サ変》

―しハ用V 五三〇

よくふかさ「欲深さ」二七二

よこと「夜毎」\*五三〇

よ・し「良し」《形ク活》cf. こころよし

―からハ未V 二七六 五三三 六二二

よ

―くハ用V 二四四 二五一 二七〇 四〇九

三三六 六〇八 六二二 六二四

―かりハ用V 二〇三 五二四

―うハ音便V 四〇四

―しハ止V 四〇二 四〇九 四六一 六〇四

六七二 七〇四 七〇九 七三三

七五五

―きハ体V 七二二 一九三 二四二 二五九

四二二 五二二 六〇五 七〇三 七三六

七五五

―けれハ已V 五二二 五二四 六六五

よし「由」二〇九 三三〇 三三二

よしあし「良し悪し」三三二 二四八

五三三 五三三 九二八

よしな・し「由無し」《形ク活》

―きハ体V 二三〇 二五七

―けれハ已V 八七二

よしののきみ「吉野の君」五二五 五三〇

よしののなかのきみ「吉野の中の君」

三三六

よしのやまのひめぎみ「吉野山の姫君」

五三三

よすが「縁」八二四

よせ「寄せ」ハこころよせ  
 よそ「余所」\*六六①  
 よそながら「余所ながら」《副》ハ四四  
 よそ・ふ「準ふ」《動四段》  
 一ふハ止▽二六②  
 よつぎ「世継ぎ」ハ作品名▽六四⑩ 六二②  
 よに「世に」《副》\*六六⑤  
 よのすゑ「世の末」二四③ 二五⑥ 六七⑦  
 七⑧ 七⑨ 七⑩  
 よのなか「世の中」ハおんよのなか  
 \*五七⑦ \*六六⑩  
 よひ「宵」二二⑪ 一五⑨ 九三⑨  
 よびのほ・す「呼び上す」《動下二段》  
 一せハ用▽七③  
 一すれハ已▽六⑭  
 よみい・づ「詠み出づ」《動下二段》  
 一づハ止▽三①  
 よみか・く「詠み掛く」《動下二段》  
 一けハ用▽二⑩  
 よみがへ・る「蘇る」《動四段》  
 一るハ体▽五⑪  
 よみは・つ「読み果つ」《動下二段》  
 一てハ用▽七⑨  
 よみ・ゐる「読み居る」《動上二段》

一るハ用▽六⑩  
 よむ「詠む」《動四段》  
 一まハ未▽二③ 九⑪ 九⑫ 九⑬  
 九⑭ 九⑮  
 一みハ用▽二⑬ 二四③ 二四⑥ 二⑩  
 三⑦ 二六⑨ 二六⑭ 三⑤ 三⑪  
 三⑫ 三⑬ 三⑭ 三⑮  
 五⑨⑩ 六⑨ 六① 七⑪ 七⑭  
 七⑦ 八⑦ 八⑬ 八⑮ 八⑯  
 八② 八④ 八⑬ 八⑰ 八⑱  
 八⑧ 八⑦ 八② 九③  
 一むハ体▽六⑤ 六⑥  
 一めハ已▽五⑧ 五① 六⑧ 八⑭  
 八④ 八⑦ 八⑧  
 よ・む「読む」《動四段》  
 一まハ未▽六⑫  
 一みハ用▽六⑧ 七⑥ 四⑤  
 一むハ体▽七⑦  
 よも《副》一⑩  
 よもぎ「蓬」三⑧ 一九③ 三六⑫ \*六六⑬  
 三⑭  
 よもぎのみや「蓬の宮」五⑥  
 よもぎふ「蓬生」ハ卷名▽一⑬  
 よもすから「夜もすから」《副》\*九④

よよ「世世」三⑧  
 よりかか・る「寄り掛かる」《動四段》  
 一りハ用▽五⑪  
 よりふ・す「寄り臥す」《動四段》  
 一しハ用▽一⑭ 七⑯  
 よる「夜」ハよ  
 六⑩  
 よ・る「依る」《動四段》  
 一りハ用▽八①  
 一るハ止▽七⑦  
 よ・る「寄る」《動四段》ハおもひよる  
 一らハ未▽三⑪  
 一るハ体▽三⑬ \*四四⑬  
 よる・し「宜し」《形シク活》  
 一しきハ体▽五①  
 よろづ「万」五⑫ 八①  
 よわ・る「弱る」ハおもひよる

ら

ら「等」《接尾》 cf. われら

らう「廊」 cf. ちゅうもんのらう

らうたげ・なり《形動ナリ活》

―に八用▽ 六③

らうた・し《形ク活》

―く八用▽ 三① 二④ 二⑥

―き八体▽ 五⑪

―けれ八已▽ 三⑬

らせち「羅刹」 cf. じふらせち

れ

れい「例」 三⑧ 七⑭

れいけいでん「麗景殿」 六④

れいせいりん「冷泉院」 三② 四⑩

れいのひと「例の人」 三⑬ 七⑩

三⑧ 九⑫

れう「料」 七⑫

ろ

ろくじっくわん「六十卷」 二⑤

ろくでうのみやすどころ「六条の御息所」

一九⑦

ろくでうのみやすどころのちゅうじやう

「六条の御息所の中將」 一⑧

ろくでうわたり「六条辺り」 三⑭

ろくでうあん「六条院」 六⑥

ろくぬすくせ「六位宿世」 三⑫

ろくぬすくせのうへ「六位宿世の上」

三⑩

わ

わうしいう「王子猷」 八⑪

わが「我が」《連》 一④⑤ \*三⑥ 三⑤

三⑫ 四⑬ \*五④ 六⑤

三⑪ \*六① 六⑭ \*六⑯

わかかんだちめ「若上達部」 六⑤

わかかわんぱく「若関白」 四⑩

わかぎ「若木」 三⑬

わかぎみ「若君」 六⑦

わか・し「若し」《形ク活》

―く八用▽ 五③ 三② 九⑥

―き八体▽ 四⑩ 五① 七⑦ 一④③

一⑤④ 一⑦⑩ 三②② 二⑥⑧ 五⑩

三⑧ 七⑭ 九①

わかな「若菜」八卷名▽ 一⑦③ 三⑭

わかまつ「若松」 \*五⑬

わがみ「我が身」 \*三⑦ \*八③④

わかみや「若宮」 四④ 六②

わかやか・なり「若やかなり」《形動ナ

リ活》

―なる八体▽ 四⑥

わかや・ぐ「若やぐ」《動四段》

―ぎ八用▽ 二④③

わか・る「別る」《動下二段》 cf.たちわ

かる

一れ八用V 二① \*六⑨

一る八止V \*三⑤

一るる八体V \*三⑧

わかれ「別」 cf.すまのわかれ

\*三⑩ \*三⑤ \*四③

わかれち「別れ路」 \*九③

わかれをし・む「別れ借しむ」《動四段》

一む八体V 二六⑨ 語⑤

わ・く「分く」《動四段》 cf.とりわく

一か八未V 八⑥ 八⑦ 六②

一き八用V 語⑤

わ・く「分く」《動下二段》

一け八未V 三六⑪

一け八用V 三⑧ 三⑨ \*三④

一くる八体V 六⑤ 三①

わけい・る「分け入る」《動四段》

一り八用V 一六④

わざ「業」 cf.おんわざ

一⑨ 一⑦ 二⑥ 二⑨ 六⑤ 六九⑪

七⑩ 七⑭ 七③ 八④ 八⑪

わす・る「忘る」《動四段》

一ら八未V 八⑨ \*三七⑦ \*三⑨ 八⑦

三③

わす・る「忘る」《動下二段》

一れ八未V \*三② 語⑥ \*三⑧

九④

一る八止V 三⑥

わすれがた・し「忘れ難し」《形ク活》

一く八用V 一⑥

わすれみづ「忘れ水」 \*六四⑫

わた・す「渡す」 cf.うゑわたす・たて

わたす・みえわたす・みわたす

わたどの「渡殿」 三⑦

わたり「辺り」 cf.あたり・うちわたり・

ひむがしやまわたり・ろくでうわた

り

三①

わた・る「渡る」《動四段》 cf.おどろき

わたる・おひわたる・きらめきわた

る・しげりわたる・ふきわたる

一ら八未V 四⑩ 四①

一り八用V 元⑤ 四八④ 五⑩

一る八止V 三⑧ 七⑦

一る八体V 五④

わづか・なり「僅かなり」《形動ナリ活》

一に八用V 一④ 二② 六⑦

わづらは・し「煩し」《形シク活》

一しかり八用V 三⑥

わづら・ふ「煩ふ」 cf.ふしわづらふ

わなな・く「戦慄く」《動四段》

一け八已V 三⑥

わび・し「侘びし」《形シク活》

一しき八体V 二⑤

一しけれ八已V 九⑥

わびし・む「侘びしむ」《動下二段》

一め八用V 三⑨

わ・ぶ「侘ぶ」《動上二段》 cf.おほしわ

ぶ・こえわぶ・こひわぶ・なぐきめ

わぶ・なげきわぶ・みわぶ

一び八未V 二四⑫

一び八用V 語④ \*七⑪

わらは「童」 二六④ 三③ 三⑤

わらはへ「童部」 八⑫

わら・ふ「笑ふ」《動四段》 cf.うちわら

ふ・わらふわらふ

一ひ八用V 三⑫

一ふ八止V 六④

一ふ八体V 七⑥

わらふわらふ「笑ふ笑ふ」《連》 二七⑬



わりな・し「理無し」《形ク活》

→くへ用▽ 五七⑪ 五八⑤ 五九④

われ「我」《代》 二⑩ 二⑯ 二⑰① 三⑮①①

\*三⑬ 四八③ 四八⑬ 五〇⑩ 七〇⑫

われから「我から」《連》 一七⑪ 一九⑨

\*六④ 六⑫

われながら「我ながら」《副》 一⑪ 三①

七④

われら「我等」《代》 一⑱

わるげ・なり「悪気なり」 cf.ひとわる

げなり

わる・し「悪し」《形ク活》 cf.ひとわる

し

→くへ用▽ 五七⑭ 六⑫①

→しへ止▽ 六⑫

→けれへ已▽ 五九④

る

る「居」 cf.まどゐ

るあか・す「居明かす」《動四段》

→さへ未▽ 五⑧

るざりい・つ「居ざり出づ」《動下二段》

→でへ用▽ 五〇⑧ 五〇⑩

るなか「田舎」 八⑤

るなほ・る「居直る」《動四段》

→りへ用▽ 五⑫

るな・む「居並む」《動四段》

→みへ用▽ 七⑧

るる「居」《動上一段》 cf.かくれるる・

こもりるる・そひるる・まじらひる

る・むかひるる・よみるる

るへ用▽ 七⑪ 七⑭ 三① 四⑤

\*五③ 六⑨

るる「率る」《動上一段》

るへ用▽ 四⑩ 五⑤⑨

るん「院」 cf.いちでうるん・うりんる

ん・げんじのるん・ごしらかはるん

・このゑのるん・さいしやうくわう

るん・さぬきのるん・しらかはるん

・すざくるん・たかくらるん・にて

うるん・によるん・ほりかはるん・

ほんるん・れいぜいるん・ろくでう

るん

一六④ 四⑨ 四⑨ 四③ 四七③

五⑪ 五⑥ 九② 九⑫ 九④

るんのうへ「院の上」 三⑧

るんのみかど「院の帝」 三⑭

るんふたぎ「韻塞ぎ」 二六④

系

系「絵」 cf.しやうじのゑ・すまのゑ

ゑあはせ「絵合はせ」 三⑩ 三六⑭

ゑひぐるひ「酔ひ狂ひ」 六⑦

ゑ・む「笑む」 cf.ほほゑむ

ゑものがたり「絵物語」 一三⑥

ゑもんのかみ「右衛門の督」 cf.かしは

ぎのゑもんのかみ

一七⑤ 二四④ 四① 四⑥ 四⑬ 五①

ゑもんのかみのうへ「右衛門の督の上」

五⑬ 五①

ゑんじ「怨じ」 cf.ものゑんじ

を

をか・し《形シク活》

→しくへ用▽ 五⑤ 五九⑥ 六⑤

五⑤ 八⑬ 八⑩ 九⑨

→しかりへ用▽ 二五⑩

→しうへ音便▽ 八⑬

→しへ止▽ 二⑩ 三⑭ 三③ 五⑦

六⑥ 六⑤ 六③ 七⑥

→しきへ体▽ 一七② 六⑤ 九③

→しけれへ已▽ 七⑬ 七⑥

をが・む「拝む」《動四段》 cf.ふしをがむ

―み入用▽ 二⑥

をさな・し「幼し」《形ク活》

―く入用▽ 三⑤

をさ・む「治む」 cf.もてをさむ

をさをさ《副》 一八⑪ 三三⑧

を・し「惜し」《形シク活》 cf.くちをし

―しから入未▽ 三三⑩ \*四六⑦

をしき「折敷き」 cf.しろがねのをしき

をしげ・なり「惜し気なり」《形動ナリ活》

―なる入体▽ 五⑤

をし・む「惜しむ」《動四段》 cf.わかれ

をしむ

―み入用▽ 三⑪

をだえのぬま「緒絶えの沼」^作品名▽

七②

をだまさ「芋環」 cf.しつのをだまさ

をち「彼方」 四⑭ 三⑮

をちかへ・る「復ち返る」《動四段》

―り入用▽ \*二⑭

をとこ「男」 三⑬ 六④ 六⑯ 六⑰

八⑨ 八⑪ 九⑫

をとめ「乙女」 cf.あまつをとめ

をとめのまき「乙女の巻」 三⑰

のを「を野」 \*五⑤ ^「小野」ヲカケル

のをのくかうたいごうぐう「小野の皇太后宮」 九⑭

のをのこまち「小野の小町」 四⑦ 六⑧

をばな「尾花」 二⑭

をばり「終はり」 三⑫

をみなへし「女郎花」 \*五⑩

をり「折」 cf.をりをり

八⑦ 一〇① 一〇② 三⑩ 三④

三② 三⑭ 三⑨ 四④ \*四⑥

四⑥ 四③ \*四⑦ 四④ 五⑧

五⑪ 五⑥ 六① \*六③ 六⑤

六⑫ 六① 六③ 八⑤ 八⑩

八① 八⑧

をりしりがほ・なり「折り知り顔なり」

《形動ナリ活》

―なり入止▽ 三⑥

をりをり「折り折り」 四⑥ 九⑧

を・る「折る」《動四段》

―ら入未▽ \*三③

―り入用▽ \*六⑬

をんな「女」 一七⑩ 一七⑫ 二⑤ 二七⑥

二七⑭ 四② 五⑩ 五⑫ 六⑪

六⑭ 六⑧ 六⑬ 六⑭ 七③

七⑪ 七⑭ 八⑬ 八⑨ 八⑩

八⑬ 八⑥ 八① 九⑫

四⑦⑭

をんなぎみ「女君」 三⑧

をんなこゑ「女声」 四⑥

をんなさんのみや「女三の宮」 二⑨

三③ 三⑪ 三⑥ 三④ 三⑭

四②

をんなちゅうなごん「女中納言」 五⑧

六⑪ 六⑦ 六⑪

をんなにのみや「女二の宮」 四③ 四⑭

をんなみや「女宮」 三⑫